

【資料】令和2年度 神戸市立博物館事業自己点検評価

神戸市立博物館は下記の4項目をその「使命」として位置づけています。

- (1) 神戸を中心とする考古、歴史資料と、東西文化の交流に関する南蛮美術、古地図資料などの調査・研究・収集を通じて、多様な神戸文化の特徴と文化交流の態様を明らかにします。その成果を市民・利用者と共有するとともに、これを次世代に継承し、地域の発展に役立つ「知の拠点」となります。
- (2) 市民・利用者が、優れた国内外の文化・芸術にふれあう機会を積極的に「提供する」博物館として、また、神戸の文化にこれまでにない魅力をつけ加えるために新たな調査・研究を「提案する」博物館、その成果を「発信する」博物館としての役割を果たします。
- (3) 博物館を利用するすべての人々が、知りたいこと、学びたいことに積極的に対応し、多くの利用者が、集い、楽しみ、憩うことができ、また、神戸を愛し、誇りとする拠りどころを得ることができる博物館としての役割を果たします。
- (4) 阪神淡路大震災の教訓を生かし、文化財を災害から守る重要性、コミュニティや市民の自発的な活動の大切さ、都市復興のなかで文化の果たす役割など、震災とその復興のなかで得た知見を全国に、世界に発信します。

上記の「使命」の実現のため、神戸市立博物館は下記の4つの「博物館使命の4大要素」を定め、これらが包含する事業に対する自己点検評価を行っています。

1. 歴史と文化の継承と研究
2. 歴史と文化への窓口
3. 人々とともに歩む
4. やさしさと安心の確保

令和2年度の神戸市立博物館事業自己点検評価の「総評」は下記のとおりです。

【総評】

「博物館使命の4大要素」である「1. 歴史と文化の継承と研究」「2. 歴史と文化への窓口」「3. 人々とともに歩む」「4. やさしさと安心の確保」の4分野すべてでB評価とした。コロナ禍にあっても、様々な感染拡大防止策を講じながら、最低限の役割を果たしてきた1年であった。

市内でも令和2年3月から新型コロナウイルス感染症患者が発生し、4月7日から5月21日の間、緊急事態措置が実施されることとなった。それに伴い、当館は、4月7日から5月18日まで休館を余儀なくされた。リニューアル後、初の大型特別展であった「コートールド美術館展」は、展示作業がすべて完了した状態であったが、多くの来館者が予想されることから「三密」を防ぐなどの来館者の安全対策が講じられない、との主催者判断で、5月21日に中止を発表した。さらに、秋に開催を予定していた「ポストン美術館展」は、東京(4月16日～)、福岡(7月18日～)、神戸(10月24日～)の3会場での巡回展であり、4月時点で米国から作品搬出ができない状況であったため、4月17日に主催者により中止を発表した。その他、7月23日から「和のガラス展」と同時開催を予定していた「兵庫の書展」も中止となった。

このような状況の中、当館では、感染症対策を徹底したうえで、10月から特別展を開催することとした。まず、「和のガラス展」を10月3日～11月23日の会期に変更して実施。次に、中止となった海外展の代替として、コロナ禍の中で失われつつある「つながり」について考え、博物館の役割を見つめなおすことを企図した「つなぐ展」を12月5日～令和3年1月24日に開催。そして、当初計画通り、令和3年2月6日～3月28日の会期で「大阪湾の防備と台場展」(同時開催「神戸源平巡り展」)を開催した。特別展は、事前予約システムやキャッシュレス決済、スマホでの音声ガイドの導入など、withコロナにおける博物館のあり方を模索した展覧会となったが、他機関への事前調査が行えず、作品借用ができなかったケースがあったほか、外出自粛の影響もあり、入館者は当初見込みの3割程度にとどまった。

一方、「つなぐ展」のアンケートでは、「神戸の魅力に圧倒される、生きる力を得られるような特別展だった。」「2時間近くかけて全部見たが、ただただ感嘆のすばらしさだった。」などの感想をいただいた。コロナ禍の中での博物館のあり方を模索し続けた1年であったが、3回の特別展やコレクション展示において、日ごろの学芸員の研究成果を反映した展示や当館が守り伝えてきた貴重な資料を、来館者にじっくりご覧いただくことができたのではないかと感じている。また、自宅からでも博物館を楽しんでいただけるよう、当館の貴重なコレクションのうち約1,300件の高精細画像と解説をホームページで公開するとともに、「コートールド美術館展」の会場風景の動画を公式ホームページ上に公開するなど、新たな取り組みも進めることができた。

前年度C評価であった「資料保存」については、加湿器・除湿器を適宜稼働させるなど、適正な温湿度管理に努めており、B評価と改善された。今後も引き続き経過観察をしていく。

「博学連携」においては、コロナ禍の中にあっても学校との協議・調整を行い、継続して実施できたことによりA評価とした。引き続き、安全・安心な授業の推進が必要である。一方で、その他の普及事業においては、中止・縮小を余儀なくされたことから、「3. 人々とともに歩む」はB評価とした。

「4. やさしさと安心の確保」はB評価としたが、この度、国登録有形文化財(建造物)である当館は、BELCA賞(公益財団法人ロングライフビル推進協会主催)を受賞した。これは、長期にわたり適切に維持保存し、活用している模範的で優れた建物を表彰するものであり、これを機に、今後もより一層、適切な維持管理に努めたい。

周辺では、「神戸ポートミュージアム」の開業など、ウォーターフロントの整備が進むとともに、東遊園地には「こども本の森こうべ」が来春オープンする。また、兵庫津ミュージアムの整備も進められており、今後、このような新たな施設と連携した発信を行うことにより、当館の魅力をより幅広く伝えていきたい。あわせて、この度の自己評価で明らかになった様々な課題に適切に対応するとともに、ポストコロナも見据えながら、博物館の使命を果たしていけるよう、今後も職員一丸となって取り組んでいく。

1. 歴史と文化の継承と研究

評価B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

評価の詳細 令和2年度の一年間を通して、新型コロナウイルスの感染拡大により、展覧会にかかる資料調査や各自の調査研究などについては一部制限を加えながらの実施となった。ただし、個人の研究成果については、ほぼ例年通りなされていた。今後もコロナ禍が継続する状況ならば、これらの調査研究については、今後とも課題となってくることが予測される。このような中ではあるが、資料の受け入れ面では、館蔵コレクションに加えるべき資料が多く入手できたことは評価してよいだろう。資料保管の点では、モニタリングと目視による作業を継続していくことが望まれる。

1-1-01 資料受入

評価 A 優れている

評価の詳細 資料購入予算が限られているなか、市民文化振興基金を取り崩した形での、作品を購入することもでき、博物館の理念・使命を念頭に置いた収集方針に基づいた受入が効果的に充実できたといえる。将来的には、収集した資料・作品を基本テーマに沿って活用していくという視野にたち、館の収集方針に則った資料の継続的な受入が望まれる。

1-1-01-01 資料購入・寄贈・寄託・保管転換

自己評価

A 優れている

P課題と目標

【購入】・【寄贈】・【寄託】それぞれにおいて、博物館の収集方針や活用計画に沿った実績を目指す。

【31年度実績】

・購入 11件156点
・寄贈 58件67点
・その他 1件1点
・保管転換 1件2点

D実施内容

【購入】 11件64点

[考古・歴史]9件62点

摂津国武庫郡石屋村文書(1件54点)／有馬山紀行(1件1点)／有馬日記(1件1点)／有馬の秋(1件1点)／有馬懐鑑(1件1点)／第一回神戸みなとの祭ポスター(複製、1件1点)／第一回みなとの祭国際大舞踏会ポスター(複製、1件1点)／日本輪業のタイヤーポスター(複製、1件1点)／開業ポスター自営神戸マーケット(複製、1件1点)

[美術]1件1点

西銘書卷(1件1点)

[古地図]1件1点

従高野山奥院慈尊院迄路徑図(1件1点)

【寄贈】 2件191点

[考古・歴史]1件1点

観艦式パノラマ写真(1件1点)

[美術]1件190点

別車博覧作品ボジ(1件190点)

【その他】2件116点 ※当館保管品を館蔵資料として登録

[考古・歴史]2件116点

横浜正金銀行神戸支店新築図面(1件115点)／神戸市立博物館パース(1件1点)

【寄託】 1寄託者52件61点

[考古・歴史]1寄託者52件61点

善福寺所蔵資料(52件61点) ※一部返還に伴う契約更新

【受入手続き】

受入手続きのマニュアルに、旧蔵者情報の記入に関する手順を追加し、職員内での共有を図った。

自己評価の詳細 プラス面

【購入】

各分野で展覧会、並びに調査研究で活用が見込まれる資料・作品を加えることができた。画像利用料を積立っていた市民文化振興基金を取崩し、高額資料を購入することができた。

【寄贈】

神戸の歴史・美術に関する資料を中心に、館蔵品を拡充することができた。

【寄託】

所蔵者の意向に沿った契約更新を行うことができた。

自己評価の詳細 マイナス面

【購入】

例年指摘事項として上がる「自らの目で購入候補を探し出し、館蔵品に加えること」は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により調査活動が制限されたこともあり、改善に至らなかった。

【受入手続き】

資料受入時の作業分担が不明確であったことにより、一部の寄贈者・寄託者の情報が発送用名簿に登録されておらず、過去数年にわたって展覧会の招待状を送付できていなかった。

1－1－02 資料保存

評価 B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

評価の詳細

館内での継続的な各展示室内における温湿度モニタリングの結果を踏まえて、対処療法的ではあるものの、加湿器あるいは除湿器を稼働させながら、ようやく展示資料に即した適正な温度湿度が概ね管理できるようになってきた。日常的な経過観察を怠らず、データ蓄積の継続を行っていかなければならない。また、館内での経過観察結果の共有化を図りながら、根本的な原因が解明できるように、施設的な改善あるいは設備的な改善も継続的に協議を続けていく必要がある。

なお、収蔵庫10のドライエリア内でのカビの発生は、不測の事態であり、資料の保存が危惧されたが、速やかに対応でき、現状では問題が発生していない。引き続いてのこまめな経過観察が必要となろう。

1－1－02－01 収蔵庫・展示室の保存環境	B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)	自己評価	B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)
P課題と目標	D実施内容	自己評価の詳細 プラス面	自己評価の詳細 マイナス面
定例の温湿度モニタリング・夏季生物環境調査、収蔵庫清掃の実施。 IPMにおいては、館内ゾーニングの「収蔵区域」における虫類0・菌類0の環境を目指すため、博物館で働く人全員に、館内で虫を発見した際の記録と、より厳格なごみの廃棄方法の変更にかかる周知と依頼を行う。 温湿度管理は、「収蔵区域」における±5%・2℃以内の変動に抑える。 環境変化に即応した対策の実施。適切な緊急時対応の実施。 温湿度のモニタリング情報の共有化の実施 館内に虫菌類が生息しにくい環境づくりを行う。	【収蔵庫・展示室内の温湿度モニタリング】 ・週1回、収蔵庫、特別展示室、コレクション展示室、神戸の歴史展示室の室内及び展示ケース内の温湿度を測定 ・日々、コレクション展示室、神戸の歴史展示室の温湿度の測定。 【収蔵庫の清掃】 ・毎月第3水曜日に全学芸員と指導主事で収蔵庫10・11の清掃。 【収蔵庫トラップ】 ・毎月清掃日の前日に収蔵庫10・11のトラップの確認と交換を実施。 【燻蒸処理】 ・9月(特別展「和のガラスーくらしを彩ったびいどろ、ぎやまん」借用資料):当館BFにて実施(エキヒューム、48時間燻蒸)。 【収蔵庫の除菌・殺虫作業】 ・4F収蔵庫10ドライエリア内のカビ調査、及び除菌・殺虫作業の実施。 12月下旬 秋頃から収蔵庫内で多数発生したチャタテムシの確認のために、ドライエリアへの点検口扉内側にカビを発見。 1月上旬 業者に対応策について相談、同22日 カビ菌調査、簡易のふき取り作業を実施。 2月19日 カビ殺菌調査の結果、カビ菌除去を要したため、エタノール含侵不織布でふき取り除去。ならびに殺虫剤噴霧処理(ピレスロイド系)を実施。 【地下講堂内の殺虫作業】 3月1日 地下講堂内の殺虫作業を実施(シフェノトリン炭酸製剤による噴霧)。 【生物環境調査】 7月7日、9月4日に生物環境調査を実施した(収蔵庫、展示室、カフェ、事務室など) 空中浮遊菌の採集・培養67か所、塵内昆虫調査27か所、フェロモントラップによる捕虫調査69か所。 【害虫に関するモニタリングと駆除】 館内で働く人全ての協力を仰ぎ、害虫発見記録を作成し共有。あわせて館内にゴキブリ駆除剤を配置。	・年度初めに予定した定例の業務は実施できた。 ・収蔵庫の清掃では、清掃道具を改善し、よりよい環境作りを図った。 ・学芸員だけでなく、館内の関係者全員にゴミの廃棄・処理方法や害虫発見記録を共有することで、博物館環境の改善に努めた。今後も継続して行う。	・神戸の歴史展示室、コレクション展示室の温湿度安定を図ったが効果はあまりみられなかった。継続した対応が必要。一方で、環境の変化を考慮した資料の展示計画が必要と考えられる。

1-1-03 資料補修

評価 B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

評価の詳細 年度内の予算の範囲での修理・補修は、計画どおりに進捗することができた。さらに、資料の補修完了のお披露目の展示計画にまでつながったことも高く評価できよう。一方で、修理・補修の期間が複数年次(12ヶ月以上)必要と目される資料の取り扱いが順調ではない。これまで以上に、展示などの活用計画を踏まえたうえで、各分野別の補修案件についての館内での調整を積極的に行い、債務負担行為を伴う予算の獲得を含め、計画的な業務の推進につないでいく必要がある。

1-1-03-01 資料補修	自己評価	B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)
P課題と目標 ・修理に要する十分な期間を設けるために、修理資料の選定を年度当初に決定する。 ・展示計画、総合資料調査を行うなかで、担当者が資料の状態を的確に把握し、資料の状態に応じて速やかに修理業務を行う。	自己評価の詳細 プラス面 各資料担当者の事前準備が整っていたため、計画的に修理業務を行うことができた。	自己評価の詳細 マイナス面 年次をまたぐ長期間施工を必要とする資料・作品の補修に対応できていない。
D実施内容 ○6月17日に今年度に補修すべき資料について実施を決定。各担当者により、業務の手続きを進めた。 ・喜多道矩筆「隠元倚騎獅像」【03章-軸013】ほか(掛軸4、卷子7) 軸首復旧 ・石峯寺出土「青銅製鍍金経筒」【新1982-822】補修 ・東山魁夷原画「瀧江月明」タペストリー クリーニング ○展示計画における館蔵品の調査や資料整理および収蔵庫の保存状況を定期的に確認する中で、当初計画をしていなかった資料保存箱や額縁の修理を追加で実施した。		

1－1－04 調査研究

評価 B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

評価の詳細 今後展開予定している展覧会の開催に向けた調査研究は、制限のあるなかで、着実に取り組みが進められていることは重要である。最終的な展覧会開催までの期限に結実できるよう努める。

館外での資料調査活動は、コロナ禍にあって、多かれ少なかれ、制限を受けることとなった。そのなかでも、各分野で効果的な成果をあげ、展覧会の開催を含め、次の段階へつないでいくことができたことは評価できる。

研究成果の発信では、前年度との件数比較では微増となり、多くの分野において精力的に取り組めたことの結果であろう。件数の多寡にこだわらず、引き続き発信に努める。

昨年度は見送ることとした『館蔵品目録』と『研究紀要』が成果として発行できたことは業務成果として評価できる。ただし、編集上での新たな課題も見つかり、新年度での改善が必要となってくるであろう。また、『研究紀要』においては、学芸員の研究成果の発信媒体として広く活用されるよう、学芸員の積極的な投稿への姿勢が求められる。さらに、館として『研究紀要』の内容について、過年度の内容を含めて、広く発信することにも努める必要がある。

1－1－04－01 調査研究計画(自主企画展計画含む)	自己評価	B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)
P課題と目標 次年度以降の展覧会に向けて計画的に調査を進め、調査成果を適切に整理する。 各学芸員は調査報告書を作成する。 次年度以降の展覧会に向けて関係諸機関と調整を進める。 次年度以降の企画展の募集を行う。 次年度以降の展覧会に向けて必要な予算要求を実施する。	自己評価の詳細 プラス面 ・調査では、トラブルもなく、実施することができた。 ・来年度以降の展覧会にかかる調査については、借用交渉も概ね順調に進んでいる。 ・次年度以降の展覧会に向けた準備についても、概ね順調に進めることができている。	自己評価の詳細 マイナス面 ・新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、調査先・地域によっては調査を中止せざる得ないケースがみられた。 ・当該年度の調査費を全て執行することができなかった。
D実施内容 【展覧会に関する調査】 和のガラス展(令和2年開催):2件／出品資料にかかる資料の比重測定を行った。測定結果を同展の展覧会図録で公表。 伊能忠敬展(令和3年開催予定):3件／出品希望資料にかかる事前調査。 川崎展(令和4年開催予定):3件／出品希望資料にかかる事前調査。 明治の写真展(令和5年以降開催予定)／なし ※新型コロナウイルス感染症の影響のため中止。 【企画展の募集】 本年度開催予定であった特別展「ボストン美術館展」の中止に伴い、代替展となる企画展を募集。 その結果、令和2年12月5日～令和3年1月24日に特別展「つなぐTSUNAGU－THE POWER OF KOBE CITY MUSEUM」を開催した。 【次年度以降の展覧会】 当初、今年度代替展として開催予定であった企画展が来年度以降の持ち越しとなった。 9月に来年度開催予定の展覧会にかかる負担金、来年度以降開催予定の展覧会にかかる調査費の予算要求を行った。		

1－1－04－02 館外資料調査	自己評価	B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)
P課題と目標 博物館の担当分野、個人の研究テーマに関わる館外調査を計画的に行う。 【R1実績値】 博物館の担当分野に関わる調査件数 19件 個人の研究テーマに関わる調査件数 8件	自己評価の詳細 プラス面 ・全分野において、各学芸員の担当分野に関する資料調査が実施できた。なかには、調査内容を展覧会、執筆などで報告することができたものがある。 ・展覧会にかかる調査については、問題なく交渉を進めることができた。	自己評価の詳細 マイナス面 新型コロナウイルス感染症の影響により、遠方への資料調査は実施できなかった。また、近隣においても、調査先では状況を鑑みて調査を中止せざるを得ない場合もあった。
D実施内容 【博物館の担当分野に関わる調査】21件 ・考古資料:2件 神戸市立押部谷中学校(三木市広野古墳群出土資料など) ・近世資料:1件 博物館の購入候補資料調査(近世文書) ・美術資料:23件 館蔵品と関連する分野の作品調査(近世絵画) わたくし美術館所蔵作品の悉皆調査(近代美術) 市内の寺社仏閣の文化財資料調査(仏教美術) 【個人のテーマ研究】3件 ・他県市の文化財調査(仏教美術):3件		

1-1-04-03 研究成果発信(執筆・講演・発表等)		自己評価	B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)
P課題と目標 博物館の事業及び個人の研究テーマに係る研究論文(査読論文)、執筆(査読論文以外の論文、図録解説以上の解説及び報告等)、普及系記事(新聞記事など)、学会発表、講演(1h以上)などにより、研究成果を積極的に発信する。	D実施内容 【執筆】 33件 当館の定期刊行物(博物館だより、研究紀要、目録)8件 展覧会図録(ポストン美術館展、和のガラス展、つなぐ展、大阪湾の防備と台場展、神戸源平巡り)11件 学術雑誌・学会誌への投稿14件	自己評価の詳細 プラス面 【執筆】 今年度は、自主企画展が中心となったため、特別展・企画展に関連する図録、作品解説に多くの分野の学芸員が取り組めた。各分野が個人の研究テーマに関わる執筆を実施できた。	自己評価の詳細 マイナス面 新型コロナウイルス感染症の影響のため、例年博物館で開催しているミュージアム講座、連携事業の回数などが縮小となった。
【R1実績値】 執筆 54件、講演 22件、発表 2件 リニューアルオープンにかかる館蔵品紹介 11件 その他 24件	【講演】 19件 特別展・企画展の記念講演会(和のガラス、つなぐ展、大阪湾の防備と台場展、神戸源平巡り)5件 生涯学習施設等での講演(文化センター、神戸婦人大学、いきいき勤労財団など)10件 普及事業にかかる講演(ミュージアム講座、学芸員と神戸を巡る)4件	【講演】 特別展・企画展の記念講演会に加えて、市内各所の文化センターでは、特定の分野にかたよることなく、神戸の歴史、館蔵品について幅広い内容の講座を実施できた。参加者の中には、講演を契機に来館する方もおられた。	
	【発表】 3件 学会発表:1件 共同研究における研究会:2件	【発表】 所属する学会や研究会での発表を行った。	
	【その他】 7件 特別展にかかる紙面記事の執筆(和のガラス、つなぐ展、大阪湾の防備と台場展)5件 学習交流員に対する研修講座1件 学会と共催によるオンライン見学会1件	【その他】 特別展を中心に、共催新聞社の紙面に記事を掲載することで、幅広い読者に、館蔵品の魅力を発信することができた。	

1-1-04-04 館蔵品目録・研究紀要・年報		自己評価	B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)
P課題と目標 『研究紀要』『館蔵品目録』 令和3年3月末刊行(予定) 『年報(平成31年度)』 令和2年9月公開(予定) ※当館HPにてPDF版	D実施内容 【年報】 構成案及び担当分担案承認 6月3日 原稿締切 8月5日 PDF編集 6月下旬～8月上旬 ホームページ公開 4月3月末に原稿を完成したが、微修正のため、公開が4月となった。	自己評価の詳細 プラス面 【紀要】 ・館蔵品及び神戸の歴史・文化に関する調査研究の成果を3本の論文として刊行できた。	自己評価の詳細 マイナス面 【年報】 ・入館者情報の修正が間に合わず、公開が令和3年度の4月となった。
	【紀要・目録】 令和3年3月30日:納品、31日発行。 ※内容は、下記のとおり	【目録】 ・美術の部、考古・歴史の部とも、館蔵品整理、調査研究の成果を刊行できた。	【紀要・目録共通】 ・経理契約のルール改訂によって、製作業務を博物館から直接発注することとなり、事務手続きに時間を要した。それにより、短い期間での製作となり、校正などに十分な時間をかけることができなかった。
	【紀要の内容】 刊行案承認 6月3日 エントリー締切 7月17日 原稿締切 11月4日 ・塚原晃「騒擾のオランダ 幕末京都で描かれた再洗礼派蜂起と八十年戦争」 ・谷正俊「神戸市内出土の土鍾について―古墳時代から鎌倉時代まで―」 ・阿部功、山本雅和「三木市広野古墳群出土の資料をめぐって―中谷新吉氏の調査報告と押部谷中学校所蔵の考古資料―」		【紀要】 ・投稿規定、執筆要項、レイアウトの基準が定まっておらず、仕上がりに毎号バラつきがある。 ・原稿締切間際になっての執筆エントリー取り下げが頻出し、当初の予定とは大幅に異なる掲載内容で刊行せざるを得なくなった。
	【目録の内容】 刊行案承認 6月3日 エントリー締切 7月17日 原稿締切 11月20日 ・「考古・歴史の部」36 写真・絵葉書IX ・「美術の部」36 浮世絵版画 総インデックス9 補遺・合作		

2. 歴史と文化への窓口

評価B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

評価の詳細 コロナ禍による緊急事態宣言の発出などによって、特別展の中止や延期の措置を講じなければならなかったことは、博物館の日常を考える上では、非常に特異な一年であったとしても過言ではないだろう。なかでも、春季のコートールド美術館展、秋季のボストン美術館展は、リニューアルなった博物館をPRするうえでも重要視していたが、その機会を逸することになった。ポストコロナを見据えた展覧会の誘致、館蔵コレクションを活かした展覧会を進めていくことで新たな機会を創出していきたい。

時期を変更して臨んだ「和のガラス展」、海外展の代替展として館蔵品の魅力を発信するための「つなぐ展」、「大阪湾の防備と台場展」は収支バランスの点では満足いく結果とならなかったが、新たな取り組みとして時間予約制やキャッシュレスなどを導入できたことは意義を認められる。

また「1. 歴史と文化の継承と研究」とも関わるが、大阪湾の防備と台場展のマイナス評価にもあるように、他機関の資料調査ができなかったのもコロナがもたらした現実であった。その意味では、調査研究に主眼を置いている博物館活動の根幹が崩れた年でもあった。

2−2−01 常設展

評価 B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

評価の詳細

「神戸の歴史展示」では、大規模な展示資料の入れ替えは望めないなか、各時代の担当学芸員が資料保存上で脆弱な資料を適宜展示替えしながら、交流を中心とした神戸の歴史をわかりやすく伝えることができた。特に、「地域文化財展示室」では、神戸市と周辺地域の歴史資料の展示を企画し、展覧することができた。引き続き、地域に関連し、来館者の興味がわくようなテーマによる資料展示が望まれる。

コレクション展示室では、臨時休館によって、展示内容や会期の変更が生じたが、各分野の担当学芸員が設定した内容で館蔵資料を展示することができた。また、緊急事態宣言下以外の期間には、ギャラリートークと称した学芸員の解説を実施し、概ね好評であった。また、期間限定の「聖フランシスコ・ザビエル像」の原資料展示は変わらず好評を維持している。

情報コーナーは、新着図書等の配架を順次実施し、常時対応可能な状態であった。データベースの整備とともに、課題となっているコンテンツの充実が望まれる。

体験学習室では、リニューアル後に設けられた開放的な空間を利用し、コロナ感染防止措置を十分に行い、展覧会関連の講座を新しい視点で開催できたことは、これまでの発想を変える意味でも有効であった。

					B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)
2−2−01−01 神戸の歴史					自己評価

P課題と目標

・交流を中心とした神戸の歴史を伝えることのできる展示を行う。

・大人から子供まで楽しむことのできるわかりやすい展示を行う。

・地域文化財展示室においては、中長期的な展示計画を立て、多様なテーマで神戸市と周辺地域についての展示を行う。

・資料保存の観点から、展示替えを行う。

D実施内容

【館総入場者数】44,619人

【展示内容と展示替え】

・[原始]「海の回廊〜東アジアとの交流〜」 出土資料、五色塚古墳模型等を用い、太古の神戸の人々の足跡を紹介。

展示資料:五色塚古墳出土 鱈付円筒埴輪、弥生土器など30件(館蔵資料21件)

展示替え:6月23日 板状鉄斧(165) → 板状鉄斧(166)

特別利用への対応:11月23日 伯母野山遺跡鉄製品、1月23日大歳山古墳資料ほか一式

・[古代中世]「大輪田泊から兵庫津へ」 文献史料、地域に伝わる有形・無形資料等を通して、古代・中世の実像を紹介。

展示資料:略平家都遷、兵庫北関入船納帳(複製)など7件(館蔵資料7件)

展示替え:7月10日 室町幕府御教書(複製) → 摂州一の谷嶋越ヨリ義経平家ヲ攻ル図、10月16日 → 室町幕府御教書(複製) など

・[近世]「兵庫津の繁栄」 文献史料や絵図のほか、兵庫津模型を交え、港町として繁栄した江戸時代の兵庫の姿に迫る。

展示資料:羽柴秀吉領知判物(榎井家文書)、天保山魯船図、摂津名所図会など15〜18件

展示替え:6月7日 羽柴秀吉領知判物(榎井家文書) → 三好長慶折紙(榎井家文書)、7月10日 太平記英勇伝松永大膳久英→

太平記英勇伝 荒儀摂津守村重、2月6日 神戸海軍操練所鬼瓦 → 摂州矢部郡車村妙法寺石炭礦之図 など

・[近現代]「開港 ～世界との交わり」 文献史料、パンフレット、絵葉書などの資料を展示し、近現代の神戸の姿を活写。

展示資料:神戸外国人居留地計画図、摂州神戸海岸繁栄之図、国産第一号パーマメント機ほか43件(館蔵資料42件)

展示替え:6月7日 神戸名所之内 和田之岬 → 摂州神戸西洋館賑之図、12月5日 兵庫姫路電車沿線名勝案内 → 神戸みなと 祭

実況絵葉書、2月5日 源内焼地区図皿(震災被災資料) → 染付銅板転写異国風景図皿 など

・[地域文化財展示室]

「兵庫津絵図」(3月28日-6月21日) 兵庫津絵図など3件(すべて寄託資料)、「弥生時代の高地性集落」(7月4日-9月22日) 弥生土

器 イイダコ壺など20件、「明治期着色写真の世界」(9月29日-11月29日) 日本名所風俗写真帳1など7件、「神戸の曼陀羅」(12月4日-1月24日) 御請来目録など2件(うち館蔵資料1件)、「東播系須恵器と瓦」(2月6日-3月28日) 唐草文軒平瓦など14件

【普及事業】

緊急事態宣言発出下をのぞいて、コレクション展示室と分担し、ギャラリートークを開催した。

【令和3年度の展示計画】

次年度の広報印刷物準備に伴い、12月に地域文化財展示室の展示計画をまとめた。

自己評価の詳細 プラス面

・新型コロナウイルス感染症による臨時休館等により、地域文化財展示室では会期・内容を一部見直しが必要となったが、年間を通して概ね当初計画に基づいた展示を実現できた。

・限られた展示スペースを十分に活用しながら、適宜資料の展示替えを行っており、日頃からの館蔵資料研究の成果を発信できている。

・キャプションについて、展示替えの機会を利用し、より見やすいよう改善を図れている。

・前年度に発覚した展示室内の不安定な湿度状況に対応すべく、日々状況を観察して、加湿器・除湿器を運転しながら、改善を図った。また、特に湿度変化の激しい近世コーナーについては、湿度変化の影響を受けにくい資料の展示に変更し対応した。

自己評価の詳細 マイナス面

・展示替えが実施できていないコーナーや資料がある。夜間開館延長の増加などにより、作業可能日が限定されていることも一因であるが、より計画的に進める必要がある。

・改善されつつあるものの、タッチパネル・映像の不調があった。

・地域文化財展示室について、2階のコレクション展示室(考古・歴史)との住み分けが曖昧となっており、コンセプトが伝わりにくくなっている。展示室の存在をアピールするとともに、展示内容やスケジュールの掲出方法についての改善の必要がある。

・館全体で使用できる音声ガイドシステムが導入されたが、原稿を執筆し、サービスを提供するには至らなかった。

・SNSでの発信が、地域文化財展示室の展示替えなど一部の話題に偏り、回数も少ない。より積極的なPRが必要。

2-2-01-02 コレクション展示室	自己評価	B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)
----------------------------	-------------	----------------------------------

P課題と目標 <p>・入場者数1万人以上</p> <p>・展示替え、ギャラリートーク等の積極的な広報</p> <p>・近年の学芸員の調査研究、資料収集を反映し、資料保存を考慮した展示の実施</p> <p>・次年度以降の展示中長期計画の策定</p> <p>・新型コロナウイルス感染症の影響下において、適切なかたちで展示活動を継続する</p>	D実施内容 <p>【コレクション展示室総入場者数/館総入場者数】10,125人/44,619人</p> <p>【国宝 桜ヶ丘銅鐸・銅戈】 実物資料(銅鐸14点、銅戈7点)を通期展示。</p> <p>【聖フランシスコ・ザビエル】 実物資料展示は11/3-11/23。左記以外は複製を展示。</p> <p>【美術】 3月17日-4月8日 「平井コレクション受贈記念 住まいを飾るたのしみ」(27件)</p> <p>5月19日-6月21日 「司馬江漢の風景画」(13件) 7月4日-8月10日 「描かれた動物たち」(6件)</p> <p>8月13日-9月22日 「洋画コレクションより―空間を見極める」(6件) 10月3日-11月23日 「人物表現の洋風趣味Ⅱ」(8件)</p> <p>12月5日-1月24日 「生誕320年 佚山」(6件) 2月6日-3月28日 「異国趣味のやきもの―京阿蘭陀」(18件)</p> <p>【古地図】 3月17日-4月8日 「平井コレクション受贈記念 住まいを飾るたのしみ」に伴い、古地図展示休止。</p> <p>5月19日-6月21日 「地図でみる世界」(6件) 7月4日-8月10日 「地図を作る人 長久保赤水」(8件)</p> <p>8月13日-9月22日 「鳥瞰図！」(9件) 10月3日-11月23日 「旅と名所」(7件)</p> <p>12月5日-1月24日 「江戸時代の都市図」(9件) 2月6日-3月28日 「地図皿ずらり」(10件)</p> <p>【びいどろ・ぎやまん・ガラス】 3月17日-4月8日 「かわいい・びいどろ―江戸時代のガラス」(9件)</p> <p>5月19日-6月21日 「“涼”のガラス」(10件) 7月4日-8月16日 「プレスガラスⅠ 欧米のプレスガラス」(9件)</p> <p>8月18日-9月22日 「プレスガラスⅡ 近代の日本製プレスガラス」(9件) 10月3日-11月15日 「輸入ぎやまん」(9件)</p> <p>11月17日-1月24日 「あかり・ランプ」(9件) 2月6日-3月28日 「手彫り切子の名品」(9件)</p> <p>【考古・歴史】 3月28日-4月8日、5月19日-6月21日 「神戸レトロ名所案内」(9件)</p> <p>7月4日-8月10日 「神戸のお経―よみがえる古の祈り―(前期)」(6件)</p> <p>8月13日-9月22日 「神戸のお経―よみがえる古の祈り―(後期)」(4件) 10月3日-11月23日 「古墳時代の造形」(17件)</p> <p>12月5日-1月24日 「建造物の設計と意匠」(7件) 2月6日-3月28日 「神戸と“清盛さん”」(8件)</p> <p>＊()内は出品資料件数</p> <p>＊新型コロナウイルス感染症による臨時休館等により、展示会期・内容を一部変更して実施した。</p> <p>【広報】</p> <p>SNSでは展示替えごとに発信し、担当学芸員が展示概要や出品資料の紹介を逐次投稿した。</p> <p>緊急事態宣言発出下をのぞいて、各展示でギャラリートークを開催した。ザビエル像実物展示についても、ギャラリートーク特別版を開催した。(ギャラリートークについては「普及事業」シートを参照)</p> <p>【令和3年度の展示計画】</p> <p>次年度の広報印刷物準備に伴い、12月に各展示室の展示計画をまとめた。</p>	自己評価の詳細 プラス面 <p>・新型コロナウイルス感染症による臨時休館等により、展示会期・内容を一部見直しが必要となったが、年間を通して概ね当初計画に基づいた展示を実現できた。</p> <p>・各展示室において、学芸員が館藏品・寄託品の調査研究に基づき、さまざまなテーマを設定して展示を構成し、作品・資料の魅力を伝える場をつくることができた。</p> <p>・【美術】では「平井コレクション受贈記念 住まいを飾るたのしみ」「描かれた動物たち」「生誕320年 佚山」で、近年寄贈や購入により新規収蔵した資料を初公開できた。「人物表現の洋風趣味Ⅱ」は、『國華』に掲載された当館学芸員の論文に関連した展示であり、研究成果の発信となった。</p> <p>・【考古・歴史】では太山寺、妙法寺からの寄託品と館藏品を織り交ぜた展示を行い、寄託品を公開・活用できた。</p> <p>・特別展・企画展とのテーマを連動させた展示として、【びいどろ・ぎやまん・ガラス】では特別展「和のガラス」会期中に「輸入ぎやまん」、【考古・歴史】では 企画展「神戸源平巡り」会期中に「神戸と“清盛さん”」を開催したことで、コレクション展示室への入場者増に努めた。</p> <p>・重要文化財「聖フランシスコ・ザビエル像」については、文化庁の「国宝・重要文化財の公開に関する取扱要項」に基づき、資料保存に配慮した日数で実物を公開した。発見100年の節目にあたる作品公開として記者資料提供を行ったことで、新聞でも取り上げられ、多数の来館者にご覧いただけた。</p> <p>・総入場者数に対する入場者数の割合が、前年度の1/10以下から、約1/4まで改善した。</p>
----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

--	--	--

2-2-01-03 情報コーナー	自己評価	B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)
-------------------------	-------------	----------------------------------

P課題と目標 <p>展覧会・展示と確実に関連付けされた図書の配架。</p> <p>情報コンテンツの更新と拡充。</p>	D実施内容 <p>【図書】</p> <p>・受入図書 920冊(購入・寄贈等。雑誌は含まない)</p> <p>・情報コーナー、ミュージアムカフェ配架</p>	自己評価の詳細 プラス面 <p>・受入図書の内容に応じて、情報コーナー、ミュージアムカフェに適切に配架できた。</p> <p>・コレクション検索機能を拡充できた。</p>
	自己評価の詳細 マイナス面 <p>・新型コロナウイルス感染症対策のため、10月2日(金)まで情報コーナーを閉室した。</p> <p>・展覧会に応じた配架の変更などができなかった。</p> <p>・検索端末で何ができるか、周知ができていない。たとえば簡単な操作ガイド的なものを用意するなどの工夫ができなかった。</p>	

※10月2日(金)まで、新型コロナウイルス感染症対策のため、情報コーナーを閉室。

P課題と目標

- ・教育普及事業の場として「子供から大人までが楽しめる」ワークショップを定期的に行えるように交流員への協力依頼と調整、アドバイスをを行う。
- ・教材、資材、子供向け書籍の維持管理を行う。
- ・体験学習室を利用する観覧者が、昨年度実績(ワークショップ参加者延べ417名、体験学習室での来館者案内延べ421名)を超える人数になるように努力する。

D実施内容

今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため閉鎖し、観覧者に対して一般開放をしなかった。

座席の間隔をあげ、飛沫防止用の透明アクリル板で間仕切りを設けた。また、定員を少人数とし、参加者の連絡先を記録するという新型コロナウイルス感染症対策を行った上で、下記の講座を行う場所として使用した。

- ・10月18日(日)、11月15日(日)講座「和ガラスに親しむ」(定員5名×2回)
- ・12月20日(日)ジュニアミュージアム講座「うつわをつなごう！金つぎ？体験」(定員5名)

新型コロナウイルス感染症拡大が収束し、一般観覧者への開放が可能になった段階で、直ちに使用できるように、日常のメンテナンス、清掃を実施している。

自己評価の詳細 プラス面

体験学習室の一般来館者の利用ができない中で、少しでも活用する中で、上記の講座をコロナウイルス感染防止対策を行ったうえで実施した。そうした中で、博物館資料を手にとって親しむことができた和ガラスの講座は少数の参加者ではあったものの、体験学習室の設備と開放的な空間を活用でき、好評を得ることができた。

自己評価の詳細 マイナス面

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため閉鎖し、一般来館者に開放を行わなかったため体験、学びの場としての活用はできなかった。また、学習支援交流員の活動の場として提供することもできなかった。

上半期は新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴い、体験学習室を利用をした活動を行うことが不可能となった。このため、下半期は感染拡大の状況を観ながら、触れることのできる展示物や図書の撤去、使用の停止、三密を避けた運営方法などの感染症拡大の防止策を行い、学習支援交流員によるワークショップを安全な状況で再開する。

2-2-02 特別展

評価 B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

評価の詳細 新型コロナウイルス感染症の拡大を受けて、コートールド美術館展、ボストン美術館展の大型海外展、兵庫の書展、開港5都市歴史展が中止となった。しかしながら、大型海外展の中止を受けて実施した「つなぐ」展においては、「つながり」をテーマとして、館蔵資料に新たな光をあて、ICTや館内掲示を利用して、来館者とともにつくりあげていく新たな展覧会のかたちを実践できた点が評価できる。また、学芸員の日頃の研究成果を広く発信した「和のガラス」展、「大阪湾の防備と台場」展を開催できた点も評価できる。

2-2-02-01 コートールド美術館展

P課題と目標

・新型コロナウイルス感染症拡大の状況を鑑み、入場者の安全を確保できる対策と環境を十分に検討し、円滑な運営が遂行できるように努める。
・目標入場者数 24万人、有料率75% 図録購入率3.9%
・目標入場者満足度 85以上 アンケートなどお客様の声を通して、改善点があれば適切に対処する。

D実施内容

・展覧会は開催を中止した。
【展覧会名】コートールド美術館展 魅惑の印象派
【会 期】令和2年3月28日(土)-6月21日(日)74日間
【会 場】特別展示室1、南蛮美術館室、特別展示室2
【主 催】神戸市立博物館、朝日新聞社、NHK神戸放送局、NHKプラネット近畿
【後 援】プリティッシュ・カウンスル
【協 賛】凸版印刷、三井物産、日本教育公務員弘済会兵庫支部
【展示概要】コートールド美術館が所蔵する、印象派及び後期印象派の名品を展示。油彩51点、彫刻9点、資料24件
【予定関連事業】
①講演会:3月28日(土)「サミュエル・コートールド:そのコレクションとビジョン」(コートールド美術館長 エルンスト・ヴェーゲリン)／6月6日(土)「セザンヌの思想と芸術」(京都工芸繊維大学准教授 永井隆則)
特別講演会:4月11日(土)「印象派の衝撃」(作家・ドイツ文学者 中野京子)
②イブニング・レクチャー:毎週土曜日17時- 17時30分
③ジュニアミュージアム講座:4月26日(日)「手作りチューブ入り絵具」／6月7日(日)「印象派で作る砂絵コースター」
④「親子鑑賞会」:5月5日(火・祝)
【図録】 24.2×24.3×2.3cm 266頁 価格2,500円
【グッズ】 ポストカード、A5ダブルクリアファイル、B6変形サイズノート、Tシャツ、ミニトート、プレイングカード、ミニワイン、ショートブレッドほか
【音声ガイド】ナビゲーター三浦春馬、17件の解説とエピソードで構成
【その他】新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、3月28日の開幕を延期した。
※5月21日付で開催中止。

自己評価

自己評価の詳細 プラス面

・新型コロナウイルス感染症拡大の中で、各方面と調整を行い開催延期や中止の情報発信や広報を速やかに行った。
・開催中止となった展覧会場を、ニュース番組での放映や展覧会公式ホームページで発信し、来場者の鑑賞体験の喪失への補完に努めた。
・開催延期や中止に伴う期間中も適切に作品や資料を保護・管理し、事故無くコートールド美術館へ返却を行った。

F 評価が困難

自己評価の詳細 マイナス面

・開催中止やチケット払い戻しなどに伴い、博物館に寄せられる多くの要求・苦情に対しては、実行委員会としての対応を調整したが、過度な電話、メール、SNSへの投稿もあり、一部に博物館の悪いイメージを発信される結果を招いた。

<p>2-2-02-02 和のガラス展</p>					B 標準 (求められる能力や役割を果たしている状態)
<p>P課題と目標</p> <ul style="list-style-type: none">館蔵品の魅力を発信するとともに、江戸時代から明治時代のガラス工芸品に親しんでもらう機会とする。 新型コロナウイルス感染症対策を講じた運営に取り組み、安心して観覧、及び関連事業に参加できる環境をつくる。 予算書の数値(収支、入場者数、有料率)の達成 <p>【予算書想定】入館者数:25,980人(有料率68%、17,666人)</p> <ul style="list-style-type: none">アンケートなどお客様の声を通して、改善点があれば適切に対処し、満足度の向上を図る。 <p>目標満足度83以上</p>	<p>D実施内容</p> <p>【展覧会名】特別展「和のガラスーくらしを彩ったびいどろ、ぎやまん」</p> <p>【会 期】令和2年10月3日(土)-11月23日(月・祝) 45日間</p> <p>【会 場】南蛮美術館室、特別展示室2</p> <p>【主 催】神戸市立博物館、読売新聞社</p> <p>【後 援】NHK神戸放送局、Kiss FM KOBE</p> <p>【協 賛】公益財団法人日本教育公務員弘済会兵庫支部、一般財団法人みなと銀行文化振興財団</p> <p>【入場者数】8,789人(有料率:67.7%)</p> <p>【展示概要】びいどろ史料庫コレクションを中心に、初公開作品を含め江戸時代から明治時代前期の和ガラス161件を展示。</p> <p>【関連事業】詳細は、別紙一覧表を参照</p> <p>【図 録】270冊(購入率3.07%)</p> <p>【音声ガイド】なし</p> <p>【収支バランス】赤字</p> <p>【アンケート満足度】展覧会満足度:83.89 スタッフ対応:84.21 展示のみやすさ:83.10 解説のわかりやすさ:82.52 展示室の環境:83.98 展示品の質:89.81 図録:83.93</p> <p>※新型コロナウイルス感染拡大を受け、予算規模を縮小の上、当初予定していた会期(令和2年7月23日(木・祝)～9月22日(火・祝)【54日間】)を変更した。(情報公開は、令和2年6月26日(金)14時～)</p>				
<p>2-2-02-03 兵庫の書展</p>					

<p>P課題と目標</p> <ul style="list-style-type: none">展覧会の趣旨を展示の構成に反映する(展示会場) 予算書の数値(収支バランス、入館者数、有料率、図録購入率、グッズ購入平均単価)の達成 <p>【予算書想定】</p> <p>入館者数:4,320人(有料率30%、1,296人)</p> <p>図録購入率:3%</p> <ul style="list-style-type: none">アンケートなどお客様の声を通して、改善点があれば適切に対処する。	<p>D実施内容</p> <p>新型コロナウイルス感染症拡大のため、本展の準備・開催が難しい状況となり、令和2年4月より主催者間で本展の中止を協議し、7月1日に実行委員会を開催して中止を決定した。7月2日に記者資料提供を行い、中止を公表した。</p> <p>展覧会計画案は下記のとおりであった。</p> <p>【展覧会名】兵庫県書作家協会創立70周年記念 ー2020令和からの発信 兵庫の書展ー</p> <p>【会 期】令和2年7月23日(木・祝)-9月22日(火・祝) 54日間</p> <p>【会 場】特別展示室1</p> <p>【主 催】兵庫県書作家協会、神戸市立博物館</p> <p>【協 賛】兵庫県書作家協会</p> <p>【目標入場者数】4,320人</p> <p>【展示概要】兵庫県書作家協会創立70周年を記念し、書作家協会に結集した作家の作品を通して、「書」に対する親しみを深めることを目的とした展覧会。</p>				
----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--	--	--	--

<p>自己評価</p>					
--------------------	--	--	--	--	--

<p>自己評価の詳細 プラス面</p> <ul style="list-style-type: none">来館者に当館のガラス工芸コレクションを知っていただく機会となった。 新型コロナウイルス感染症対策が求められる中、大きな事故もなく、無事閉幕となった。 関連事業の中で、実物資料に触れる機会を設けた「和ガラスに親しむ」については好評で、今後も同様の機会を設定してほしいとの意見が多かった(10/18,11/15)。 当初予定していなかったが、日本ガラス工芸学会との共催により、学会員、および一般向けにオンライン上で解説会を実施した。解説後は、質疑応答時間を設け、研究者や現役のガラス職人などからも意見がでて、活発な議論がかわされた。 入館者有料率、ならびにアンケートによる満足度は概ね目標数値を達成することができた。					
-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--	--	--	--	--

<p>自己評価の詳細 マイナス面</p> <ul style="list-style-type: none">新型コロナウイルス感染症の影響もあり、入館者数は当初見込みよりも大幅に少ない数となった。11月以降、全国的に感染者数も増加の傾向にあり、会期末につれて外出自粛の報道も頻繁にみられるようになったことも要因の一つといえる。 同影響により、小中学生の団体入館はなかった。 金曜20時まで、土曜21時までの夜間開館を実施したが、18時以降の入館者数は少なく、費用対効果を鑑みても、今後の取り組みについて検討を要する。 記念講演会、講座の有料化を試行したが、これに対する不満は聞かれなかった。積極的に評価できるだけのデータもなく、集客率減の要因となった可能性も考えられる。 来館者アンケートに、「キャプションの展示位置が低い」との意見があった。展示ケースの目隠し、照明の工夫などを行ったが、現状の設備では対応が難しい点もある。展覧会の予算も限られており、展示台の作成、照明器具の調整など中・長期的な計画を立てて改善に取り組む必要がある。					
-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--	--	--	--	--

<p>自己評価</p>					
--------------------	--	--	--	--	--

<p>自己評価の詳細 プラス面</p> <ul style="list-style-type: none">来館者に当館のガラス工芸コレクションを知っていただく機会となった。 新型コロナウイルス感染症対策が求められる中、大きな事故もなく、無事閉幕となった。 関連事業の中で、実物資料に触れる機会を設けた「和ガラスに親しむ」については好評で、今後も同様の機会を設定してほしいとの意見が多かった(10/18,11/15)。 当初予定していなかったが、日本ガラス工芸学会との共催により、学会員、および一般向けにオンライン上で解説会を実施した。解説後は、質疑応答時間を設け、研究者や現役のガラス職人などからも意見がでて、活発な議論がかわされた。 入館者有料率、ならびにアンケートによる満足度は概ね目標数値を達成することができた。					
-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--	--	--	--	--

<p>自己評価の詳細 マイナス面</p> <ul style="list-style-type: none">新型コロナウイルス感染症の影響もあり、入館者数は当初見込みよりも大幅に少ない数となった。11月以降、全国的に感染者数も増加の傾向にあり、会期末につれて外出自粛の報道も頻繁にみられるようになったことも要因の一つといえる。 同影響により、小中学生の団体入館はなかった。 金曜20時まで、土曜21時までの夜間開館を実施したが、18時以降の入館者数は少なく、費用対効果を鑑みても、今後の取り組みについて検討を要する。 記念講演会、講座の有料化を試行したが、これに対する不満は聞かれなかった。積極的に評価できるだけのデータもなく、集客率減の要因となった可能性も考えられる。 来館者アンケートに、「キャプションの展示位置が低い」との意見があった。展示ケースの目隠し、照明の工夫などを行ったが、現状の設備では対応が難しい点もある。展覧会の予算も限られており、展示台の作成、照明器具の調整など中・長期的な計画を立てて改善に取り組む必要がある。					
-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--	--	--	--	--

<p>自己評価</p>					
--------------------	--	--	--	--	--

<p>自己評価の詳細 プラス面</p> <ul style="list-style-type: none">来館者に当館のガラス工芸コレクションを知っていただく機会となった。 新型コロナウイルス感染症対策が求められる中、大きな事故もなく、無事閉幕となった。 関連事業の中で、実物資料に触れる機会を設けた「和ガラスに親しむ」については好評で、今後も同様の機会を設定してほしいとの意見が多かった(10/18,11/15)。 当初予定していなかったが、日本ガラス工芸学会との共催により、学会員、および一般向けにオンライン上で解説会を実施した。解説後は、質疑応答時間を設け、研究者や現役のガラス職人などからも意見がでて、活発な議論がかわされた。 入館者有料率、ならびにアンケートによる満足度は概ね目標数値を達成することができた。					
-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--	--	--	--	--

<p>自己評価の詳細 マイナス面</p> <ul style="list-style-type: none">新型コロナウイルス感染症の影響もあり、入館者数は当初見込みよりも大幅に少ない数となった。11月以降、全国的に感染者数も増加の傾向にあり、会期末につれて外出自粛の報道も頻繁にみられるようになったことも要因の一つといえる。 同影響により、小中学生の団体入館はなかった。 金曜20時まで、土曜21時までの夜間開館を実施したが、18時以降の入館者数は少なく、費用対効果を鑑みても、今後の取り組みについて検討を要する。 記念講演会、講座の有料化を試行したが、これに対する不満は聞かれなかった。積極的に評価できるだけのデータもなく、集客率減の要因となった可能性も考えられる。 来館者アンケートに、「キャプションの展示位置が低い」との意見があった。展示ケースの目隠し、照明の工夫などを行ったが、現状の設備では対応が難しい点もある。展覧会の予算も限られており、展示台の作成、照明器具の調整など中・長期的な計画を立てて改善に取り組む必要がある。					
-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--	--	--	--	--

<p>自己評価</p>					
--------------------	--	--	--	--	--

2-2-02-04 開港5都市歴史展		自己評価	F 評価が困難
<p>P課題と目標</p> <p>開港五都市で順番に開催している「開港5都市フェスタ」において、共催事業として、無料ゾーンを活用して館蔵資料やパネル展示を行う。</p>	<p>D実施内容</p> <p>「開港五都市フェスタ2020 in 神戸」の共催として、1階ホールケースおよび2階ギャラリーにおいて、居留地設計図(レプリカ)など、館蔵の歴史資料を展示するとともに、開港5都市(横浜・長崎・箱館・新潟・神戸)の現風景などのパネル展示を実施し(都市局景観政策課)、開港五都市の様相を広く認識してもらう。</p>	<p>自己評価の詳細 プラス面</p> <p>「開港5都市フェスタ2020 in 神戸」の準備に際して、都市局景観政策課をはじめとする関係各所と調整を図りながら、関係性を築けたことは、次の開催にむけての足がかりになったと考えられる。</p>	<p>自己評価の詳細 マイナス面</p> <p>コロナ禍の状況において、「開港5都市フェスタ2020 in 神戸」が中止となり、それにもない共催展示ができなかったため、来館者に開港五都市の魅力を伝えることができなかった。</p>

2-2-02-05 ボストン美術館展		自己評価	F 評価が困難
<p>P課題と目標</p> <p>・展覧会中止に伴う内外の調整、広報・精算を適切に実施する</p>	<p>D実施内容</p> <p>新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止となった。中止にいたる経緯は下記の通り。</p> <p>【展覧会中止にいたる経緯】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3月12日 新型コロナウイルス感染症による非常事態宣言がマサチューセッツ州に発出されたのに伴い、ボストン美術館が閉鎖 ・3月13日 アメリカ・トランプ大統領による国家非常事態宣言 ・3月19日 東京展開幕延期を展覧会公式HPで発表 ・3月20日 アメリカ国務省、全世界への渡航禁止 ・4月3日 ボストン美術館の閉鎖が6月30日まで延長 ・4月17日 作品輸送の目途がたたないことから、全3会場の開催中止を展覧会公式HPで発表。神戸展では、当館HP・SNS・神戸市市政記者への資料提供を同時に行い、中止を周知した。 <p>【展覧会準備経費にかかる精算】</p> <p>展覧会を主催予定であった神戸市、読売テレビ、読売新聞社で分担して、準備経費を精算した。</p> <p>※当初の展覧会計画案は下記のとおりであった。</p> <p>【展覧会名】「ボストン美術館展 芸術×力(げいじゅつとちから)」</p> <p>【会期】令和2年10月24日(土)-3年1月17日(日) 73日間</p> <p>【会場】特別展示室1、南蛮美術館室、特別展示室2</p> <p>【主催】神戸市立博物館、読売テレビ、読売新聞社</p> <p>【目標入場者数】193,500人</p> <p>【展示概要】エジプト、ヨーロッパ、インド、中国、日本などさまざまな地域で生み出された約60点の作品を通して、芸術作品が本来になっていた役割と、力とともにあった芸術の歴史を振り返る展覧会。「吉備大臣入唐絵巻」「平治物語絵巻」が里帰りを予定していた。</p> <p>【巡回先】東京都美術館、福岡市美術館</p>	<p>自己評価の詳細 プラス面</p> <p>・展覧会の開催に向け、事前の作品調査・作品選定・展示構成検討・図録執筆・プレスリリース執筆など、ボストン美術館及び巡回館(東京都美術館・福岡市美術館)の学芸員、日本テレビと協力しながら、円滑に取り組むことができた。</p> <p>・展覧会は中止となったが、図録は刊行できたことで、数年間にわたる事前準備の成果をかたちにすることができた。</p> <p>・展覧会の中止に伴う調整、広報、精算については、適切に行うことができた。</p>	<p>自己評価の詳細 マイナス面</p> <p>・新型コロナウイルス感染症の影響により、展覧会を中止せざるを得なかった。</p>

<p>2-2-02-06 つなぐ展</p>	<p>B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)</p>
<p>P課題と目標</p> <p>※ボストン美術館展の中止に伴い、年度当初に代替展として企画した</p> <ul style="list-style-type: none">・展覧会の趣旨を展示の構成に反映する(展示会場、図録) ・つながりを発信する講演、講座、ワークショップなど関連事業の開催 ・予算書の数値(収支バランス、入館者数、有料率、小冊子購入率、グッズ購入平均単価)の達成 <p>【予算書想定】</p> <p>入館者数：38日 入場者総数11,400人(有料率60%、6,840人)</p> <p>小冊子購入率:35%</p> <ul style="list-style-type: none">・アンケートなどお客様の声を通して、改善点があれば適切に対処し、満足度の向上を図る <p>満足度:83以上</p> <ul style="list-style-type: none">・新型コロナウイルス感染症の拡大防止のための対策を実施する。	<p>D実施内容</p> <p>【展覧会名】「特別展「つなぐ展—THE POWER OF KOBE CITY MUSEUM」</p> <p>【会 期】令和2年12月5日(土)–令和3年1月17日(日) 38日間</p> <p>【会 場】特別展示室1、南蛮美術館室、特別展示室2、回廊</p> <p>【主 催】神戸市立博物館、神戸新聞社、毎日新聞社</p> <p>【後 援】NHK神戸放送局</p> <p>【協 賛】日本教育公務員弘済会兵庫支部</p> <p>【入場者数】3,445名(有料率42%、1,430人、平均91人／日、最高180人・1月24日)</p> <p>※目標入場者数11,400人(達成率30.21%)</p> <p>【展示概要】新型コロナウイルス感染症拡大後の世界で、失われつつある「つながり」を回復し、博物館の役割を見つめなおすことを企図した展覧会</p> <p>【関連事業】詳細は別紙一表覧を参照</p> <p>【図録】234冊(購入率6.9%)</p> <p>【収支バランス】赤字</p> <p>【アンケート満足度】展覧会満足度:89.1 スタッフ対応:90.79 展示のみやすさ:87.82 解説のわかりやすさ:88.13 展示室の環境:85.26 展示品の質:91.03 図録90.00</p>
<p>2-2-02-07 大阪湾の防備と台場展</p>	<p>B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)</p>
<p>P課題と目標</p> <ul style="list-style-type: none">・館蔵品の魅力を発信するとともに、神戸の歴史に親しんでもらう機会を提供する。 ・新型コロナウイルス感染症対策を講じた運営に取り組み、安心して観覧、及び関連事業に参加できる環境をつくる。 ・予算書の数値(収支バランス、入館者数、有料率、図録購入率、グッズ購入平均単価)の達成 <p>【予算書想定】入館者数:27,500人(有料率60%、18,000人)</p> <ul style="list-style-type: none">・アンケートなどお客様の声を通して、改善点があれば適切に対処し、満足度の向上を図る <ul style="list-style-type: none">・目標満足度83以上	<p>D実施内容</p> <p>【展覧会名】特別展「和田岬砲台史跡指定100年記念 大阪湾の防備と台場」</p> <p>【会 期】令和3年2月6日(土)–3月28日(日) 44日間</p> <p>【会 場】南蛮美術館室、特別展示室2</p> <p>【主 催】神戸市立博物館、神戸新聞社</p> <p>【協 力】三菱重工業株式会社、神戸市文化財課</p> <p>【後 援】NHK神戸放送局、サンテレビ、ラジオ関西</p> <p>【協 賛】公益財団法人日本教育公務員弘済会兵庫支部</p> <p>【入場者数】4,524人(有料率54.01%)</p> <p>【展示概要】和田岬砲台史跡指定100年を記念して、幕末期の大阪湾岸に築造された台場群の歴史的意義を紹介する</p> <p>【関連事業】詳細は、別紙一覧表を参照</p> <p>【図 録】478冊(購入率10.59%)</p> <p>【収支バランス】赤字</p> <p>【アンケート満足度】</p> <p>展覧会満足度:75.85 スタッフ対応:81.39 展示のみやすさ:71.02 解説のわかりやすさ:73.61 展示室の環境:79.12 展示品の質:84.44 図録:74.28</p>

<p>自己評価</p>	<p>自己評価の詳細 プラス面</p> <ul style="list-style-type: none">・私×つなぐ×神戸市立博物館 <p>神戸市立博物館の思い出に関する文章と写真を市民に公募し、展覧会の最後にあたる2階回廊にて展示した。</p> <ul style="list-style-type: none">・#つなぐ展をつなぐ <p>会期中、観覧者にお気に入りの資料を撮影していただき、SNSにその理由と「#つなぐ展をつなぐ」とともにUPしてもらう企画を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none">・QRコードを利用した音声ガイド <p>展示解説にQRコードを付し、それをスマートフォンで撮影することで、音声ガイドを聞くことができるシステムを導入した。</p> <ul style="list-style-type: none">・博物館と連携協定を締結している神戸市外国語大学、神戸松蔭女子学院大学とこれまでの連携事業の「つながり」を活かした神戸の食・ファッション・文化にかかわる事業を展開した。 <ul style="list-style-type: none">・アンケート満足度、図録購入率ともに目標数値を達成することができた。 <ul style="list-style-type: none">・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、日時指定の予約システムを導入した。	<p>自己評価の詳細 マイナス面</p> <ul style="list-style-type: none">・新型コロナウイルス感染拡大期ということもあり、予算書で設定した入館者数、有料率の数値に遠く及ばない結果となった。
<p>自己評価</p>	<p>自己評価の詳細 プラス面</p> <ul style="list-style-type: none">・和田岬砲台をはじめ大阪湾沿岸の台場について、親しんでいただく機会となった。 ・当館所蔵資料や寄託資料を来館者に広く知っていただく機会とすることができた。 ・新型コロナウイルス感染症対策として、検温や予約システムを導入した。記念講演会やワンポイント解説会、子供向けイベントなども実施することができ、大きな混乱もなく展覧会を終えることができた。 ・これまで金曜を20時まで、土曜を21時まで夜間開館を行っていたところを、緊急事態宣言解除後には、コロナ禍の状況を踏まえ、金曜・土曜ともに19時30分までの夜間開館を柔軟に実施した。 ・図録は多くの購入(478冊・購入率10.59%)があった。	<p>自己評価の詳細 マイナス面</p> <ul style="list-style-type: none">・当初は他機関から資料の借用を計画していたが、新型コロナウイルス感染症のために、事前に十分な調査を行えなかった。実物資料の借用は神戸市内の機関のみとなった。 ・展示品は古文書が中心となり、専門的な用語や難解な語句が多く、一部のファン層を除いた多くの来場者にとっては、展示内容を理解しづらく、結果として満足度が伸びなかったと考えられる。 ・新型コロナウイルス感染症拡大の影響もあり、入館者数は当初見込みよりも大幅に少ない数となった。1月8日から2月28日まで緊急事態宣言が出されたことも要因の一つといえる。 ・緊急事態宣言中は小中学生の団体入館はなかった。宣言解除後も、小中学生の団体入館については、班別入館のみとした。 ・緊急事態宣言発令中であつたため、直前までイベントを開催できるか確定できず、イベントの広報を十分に行えなかった。 ・記念講演会を当日先着順としたところ、定員を40人に削減したこともあり、整理券配布時間とともに定員に達した。そのため、その後に来館した聴講希望者に対しお断りすることもあった。人気講演会の場合は、定員に達したことをSNSで通知するなどの広報をする必要がある。

2-2-03 企画展

評価 A 優れている

評価の詳細

「源平から神戸を知る展」では、「大阪湾の防備と台場展」との同時開催であったため、神戸を題材とした地域に密着した展覧会として相乗効果があり、来館の契機としても十分に位置づけできた。内容的にも親しみやすく展覧できる配慮があり、図録販売も好評で、館蔵資料の魅力を高めながら、再発見を促すには絶好の機会となった。広報面では、「神戸・清盛隊」との協力により、内覧会以降一部の方を対象に注目される展覧会となったことは特筆できる。爆発的ではなかったものの、SNSでの発信に刺激をうけ、来館された方が少なからずおられたことは、今後の広報面での新たな展開を模索する必要があるだろう。なお、コロナ禍により中止していた講演会を急遽開催することとしたが、募集人員と応募方法での予期しない課題が生じたため、再考が必要な懸案となった。

コロナ禍にあって、急遽募った企画である「食べる展」に関しては、興味深い内容の提示であったため、将来的な展覧会候補として、来年度以降にも調査を継続して進め、展覧会の開催へとつないでいく。

2-2-03-01 食べる展

自己評価

F 評価が困難

P課題と目標

※ボストン美術館展の中止に伴い、年度当初に代替展として企画した

・コロナウィルスの感染拡大防止のためにやむなく閉館した博物館を再開するにあたり、博物館の所蔵品による自主企画展、「食べる展」(仮題)を実施する。

・展覧会のタイトルの決定および展覧会の趣旨にあった出品リスト案を作成して展覧会を構成。

・広報印刷物、出品目録の作成および展覧会の広報と資料提供

・展示パネル、キャプションの作成と展示業者の決定、イベントの計画と実施、展示及び撤去作業

・会期:10月3日(木・祝)-11月23日(火・祝)(45日間)、1日の目標鑑賞者数234人

・アンケートによる満足度 80%

D実施内容

大型海外展中止を受けて、館内で意見集約し、実施の準備を進めたが、最終的には、予算が獲得できず、今年度の実施は見送りとなった。

自己評価の詳細 プラス面

自己評価の詳細 マイナス面

2-2-03-02 源平から神戸を知る展

<div>P課題と目標</div> <ul style="list-style-type: none">館蔵品の魅力を発信するとともに、神戸に遺る源平合戦の歴史を紹介し、地域の魅力を再発見できる展示をつくる。 新型コロナウイルス感染症対策を講じた運営に取り組み、安心して観覧、及び関連事業に参加できる環境をつくる。 アンケートなどお客様の声を通して、改善点があれば適切に対処し、満足度の向上を図る。	<div>D実施内容</div> <ul style="list-style-type: none">【展覧会名】企画展「神戸源平巡り—『平家物語』の舞台を訪ねて」 【会 期】令和3年2月6日(土)–3月28日(日) 44日間 【会 場】特別展示室1 【入場者数】4,524人(有料率54.01%)※同時開催の特別展「大阪湾の防備と台場展」と共通チケット 【展示概要】神戸を舞台とした源平合戦に関する館蔵コレクションを中心に41件を展示し、合戦の物語や地域に遺された足跡に関する研究成果を発信した。 【関連事業】詳細は、別紙一覧表を参照 【小冊子】A5版、カラー22頁、300円(税込) 451冊(購入率9.96%) 【アンケート満足度】展覧会満足度:83.33 スタッフ対応:81.35 展示のみやすさ:80.68 解説のわかりやすさ83.21 展示室の環境81.34 展示品の質85.68 図録:82.87
------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

自己評価

自己評価の詳細 プラス面

・館蔵資料のみならず、地域史に焦点を当てる展覧会を実施することができ、来場者より高い満足度を獲得することができた。

- 同じく地域史をテーマとした特別展「大阪湾の防備と台場展」と同時開催としたことは、来場者にとって興味を持ちやすいものであった。
- 作品解説とは別に、平易な文章で神戸市内の歴史スポットを紹介するパネルを設置し、来場者にとってより判りやすい展示となるよう心がけた。
- 神戸市内を中心に活動するグループ「神戸・清盛隊」より広報活動の打診があり、記者内覧会への参加・SNSでの協力へつなげた。それにより、主に同グループのファンへの周知に成功し、好評を得ることができた。
- 上記の盛況を受け、当館からもSNSによる積極的な発信ができた。特にTwitter上では、150件以上の「いいね！」を獲得する(2/16「【企画展「神戸源平巡り」作品紹介 巻第一】源平合戦図屏風」、2/17「【台場展・源平展にお越しの皆さま、ぜひ発信してください】」、2/19「【企画展「神戸源平巡り」小冊子 発売中】」)など、成果がみられた。
- 会期中(2/12)より、館蔵品に限り写真撮影可としたことは好評の声が聞かれ、来場者自身がSNS等で発信することで、更なる広報につながった。
- 企画展に合わせて制作した小冊子は、作品の情報に加え、市内の史跡や寺社を紹介し、ガイドブックとしても活用できるものとなった。展示室内やミュージアムショップおよびSNSでの販促も積極的に行い、高い購入率を上げることができた。

A 優れている

自己評価の詳細 マイナス面

- 新型コロナウイルス感染症影響もあり、入館者数は当初見込みよりも大幅に少ない数となった。1月8日から2月28日まで緊急事態宣言が出されたことも要因の一つといえる。
- 緊急事態宣言解除後は金曜土曜19時30分までの夜間開館を実施したが、18時以降の入館者数は少なく、費用対効果を鑑みても、今後の取り組みについて検討を要する。
- 解説パネルやキャプションに英訳を準備することができず、それに対する不満の声も聞かれた。
- 記念講演会については、感染症対策のため定員数を減らして開催したが、想定以上に聴講希望があり、参加をお断りするケースが多数発生した。受付方法に関する意見も聞かれた。
- 来場者によりキャプションの誤植が撮影され、Twitterや個人ブログでご指摘を受けた。(当該部分はアンケートでも指摘があり、次の開館日までに修正した。)

2-2-04 特別利用等

評価 B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

評価の詳細 【特別利用・画像利用・画像提供】いずれも、概ね円滑かつ適切に事業を進めることができた。また、業務改善とサービスの向上のため、申請手続きの効率化やEメールで申請手続きの準備が整い、令和3年度から運用を開始している。

【館外貸出】6箇所65件65点と決して多くはないものの、展覧会開催そのものが控えられたコロナ禍にあって、事故もなく、資料の貸出・活用が十分に図ることができたものと評価できる。関東圏では2011年以来の公開となった、特別展「桃山」展での重要文化財「聖フランシスコ・ザビエル像」「泰西王侯騎馬図屏風」の貸出が特筆できる。引き続き、今後とも館蔵資料の普及啓発活動をより一層進め、資料の活用の促進に努めることも必要であろう。また、円滑な申請手続きに向けて、内規の変更準備も整ったため、令和3年度から運用を開始している。

2-2-04-01 特別利用・画像利用・画像提供		自己評価	B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)
P課題と目標 申請及び申込に対する手続きを迅速かつ適切に行う。 手続き中に発生した問題を記録し、来年度以降の運用方法、契約内容に反映する。	D実施内容 【特別利用】申請10件 239点 内訳)熟覧10件／模写0件／模造0件／撮影8件／その他1件(考古資料の法量計測)(重複申請を含む) 【画像利用】申請168件 450点 ア)国、地方公共団体が公共の目的でその事業の用途として利用するため申請するとき。／45件77点 イ)学校教育法第1条に規定する学校(大学は除く。)の教科書、学校(大学は除く。)が作成する教材の用途として利用するとき。／25件58点 ウ)博物館が調査研究、展示、広報等の用途として利用するため申請するとき。／38件114点 エ)営利を目的としない個人、団体が、営利を目的としない学術書(発行部数1,000部以下)、又は学術雑誌、調査報告書等もっぱら学術研究の用途として利用するとき。／57件198点 オ)その他、神戸市教育委員会が特に必要と認める利用のとき。／3件3点 【画像提供】 431件729点 イメージアーカイブ登録 636件 【内規整備】 ・画像利用に関して、令和3年度から公印を省略し、申請の受付及び画像データの送付を電子メールで対応するという方針の変更に ついて、学芸会議で内諾を得た上で、事務の簡略化に向けて作業を進めることができた。	自己評価の詳細 プラス面 【特別利用】 申請手続きを怠ることなく、スムーズに実施できた。 【画像利用】 申請手続きを怠ることなく、迅速・適切に取り組めた。 【画像提供】 ・画像利用料を用いて館蔵資料の新規撮影を行うことができた。 ・昨年度と比較し、利用料金が増加した。	自己評価の詳細 マイナス面 【特別利用】 申請書提出後に記入漏れや誤りがみられ、再提出を求める機会があった。 【画像利用】 検定済の教科書の取り扱いについて議論になったが、結論は来年度以降の持ち越しの課題となった。 申請内容によっては、学術利用に該当するか判断が難しい事例がみられた 【画像提供】 従前から議論になっている業務の複数年契約、博物館受付分の画像利用の委託については、来年度以降の持ち越し課題となった。

P課題と目標	D実施内容	自己評価の詳細 プラス面	自己評価の詳細 マイナス面
<p>申請及び申込に対する手続きを迅速かつ適切に行う。</p>	<p>【館外貸出】6箇所65件65点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般社団法人 神戸港振興協会(神戸海洋博物館) 常設展示「平清盛と大輪田の泊」 令和2年4月1日(水)～8月11日(火) ※西村公朝「平清盛座像」1点 ・神戸ゆかりの美術館 企画展「別車博資展～ゆかりの人々とともに」 令和2年5月19日(火)～7月26日(日) ※別車博資「風景」「省線線路」など55件 ・国立新美術館 令和2年度特別企画展「古典×現代2020―時空を超える日本のアート」 令和2年6月24日(木)～8月24日(火) ※鶴洲「木蓮に叭々鳥図」、森蘭斎「桃に瑠璃鳥図」など3件 ・山口県立美術館「奇才―江戸絵画の冒険者たち―」 令和2年7月7日(火)～8月30日(月) ※菅井梅関「江の島図」1件 ・佐賀県文化財課文化財保護室(吉野ヶ里歴史公園内「弥生くらし館」) 特別企画展「よみがえる邪馬台国」 令和2年9月19日(土)～11月8日(日) ※国宝「桜ヶ丘4号銅鐸(複製)」など2件 ・東京国立博物館 特別展「桃山―天下人の100年」 令和2年10月6日(火)～11月29日(日) ※重要文化財「聖フランシスコ・ザビエル像」「泰西王侯騎馬図屏風」など3件 <p>【館外貸出業務に関する内規整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務手続きのスムーズ化を図り、一部内規の変更を行った。 	<p>・大きな事故もなく、資料貸出業務を行った。</p> <p>・特別展「桃山」では、重要文化財「聖フランシスコ・ザビエル像」「泰西王侯騎馬図屏風」の貸出を行った。関東圏では、2011年(サントリー美術館「南蛮美術の光と影」)以来の公開となった。</p> <p>・貸出にかかる事務手続きがより効率的に進められるように、改善を図った(来年度から運用予定)。</p>	<p>・新型コロナウイルス感染症の影響のため中止となる展覧会もあり、例年よりも貸出数は少なかった。</p>

2-2-05 広報

評価 B **標準**(求められる能力や役割を果たしている状態)

評価の詳細 博物館だよりや展覧会スケジュールなどの紙媒体による広報に加え、HP、SNS等を用いて効果的な広報が実施できた。新型コロナウイルス感染症の急拡大にともなう、臨時休館や夜間開館とりやめなどについても迅速に情報発信できた。また、特別展「つなぐ」期間中は、ほぼ毎日SNSを更新し、展覧会の広報に務めた点評価できる。

2-2-05-01 HP、SNS	B 標準 (求められる能力や役割を果たしている状態)	自己評価	B 標準 (求められる能力や役割を果たしている状態)
P課題と目標 <p>・ホームページ更新にかかる業務分担および更新手続きフローの作成を行う。</p> <p>・「コレクション」ページの充実を図るため、文化遺産オンラインへの登録点数を1,200点まで増やす。</p> <p>・Facebook・Twitterの発信をそれぞれ90回行う。</p> <p>・突発的事象が発生した場合、迅速に、かつ適切な情報の発信を行う。</p> <p>【令和元年度実績】</p> 文化遺産オンライン283点 Facebook投稿80件フォロワー3,369人、Twitter投稿64件フォロワー9,876人	D実施内容 <p>【ホームページ】</p> <ul style="list-style-type: none">委託業者による更新回数　100回(博物館職員による更新回数は含まない) 訪問者数　280,483アクセス コレクションページの登録件数　約1,300件 <p>【SNS】</p> <ul style="list-style-type: none">Facebook <ul style="list-style-type: none">投稿数139、フォロワー数3,472、いいね数3,271 Twitter <ul style="list-style-type: none">投稿数194、フォロワー数10,692 <p>【緊急事態宣言に伴う対応】</p> <ul style="list-style-type: none">緊急事態宣言発出に伴う4月から5月の臨時休館をはじめ、特別展「コートールド美術館展」、「ボストン美術館展」の中止など、イレギュラーな状況においても、委託業者と円滑な連携をはかりながら、逐次必要な情報の更新・発信に努めた。	自己評価の詳細 プラス面 <p>【ホームページ】</p> <ul style="list-style-type: none">コレクションページの登録件数として、約1,300件まで充実化を図った。コレクションページの充実化によって、高精細画像や作品解説をどこにいてもアクセス可能な館蔵品が大幅に増えた。コロナ禍における外出自粛の中、自宅でもコレクションに親しんでもらえる機会を提供できた。 <p>【SNS】</p> <ul style="list-style-type: none">Facebook、Twitterとも、目標数以上の投稿を行うことができた。 Facebook、Twitterとも、フォロワー数が増加した。	自己評価の詳細 マイナス面 <p>【共通】</p> <ul style="list-style-type: none">コロナ禍における他館のウェブ上での活発な取り組みと比して、当館ではHPの更新とSNSでの発信という従前どおりの取り組みであった。 ホームページ更新にかかる業務分担および更新手続きフローの作成については、明確な業務分担ができておらず、特定の職員が更新を進めるかたちとなった。 <p>【ホームページ】</p> <ul style="list-style-type: none">コロナ禍、緊急事態宣言に伴い、臨時休館や展覧会の中止・延期があり、結果としてHPへのアクセス数は低調気味であった。コートールド美術館展の開催中止を発表した5月のアクセス数が年間で最も多く36,394であった。

2-2-05-02 印刷物製作(博物館だより・展覧会予定等)

P課題と目標 <p>・博物館だよりを秋、春2回発行(118号は9月30日、119号は3月下旬)。</p> <p>・カレンダーの発行(令和2年度修正版9月1日、令和3年度版3月末発行)</p> <p>・博物館だより、カレンダーの発行部数の見直しを行う。</p> <p>・博物館だよりおよびカレンダーについて、来館者への館内での配布、関連施設への発送を行う。あわせて、博物館だよりのホームページにおける公開、SNSでの紹介を行う。</p>	D実施内容 <p>・博物館だよりを秋・春2回発行した。 118号:10月6日発行(12ページ) 119号:3月19日発行(12ページ)</p> <p>・カレンダーを発行した。 令和3年度版:3月19日発行 ※令和2年度修正版:9月1日に発行を予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大の状況によって展覧会の開催予定が変更される可能性が想定されたため、発行しなかった。</p> <p>・配布期間中の来館者数を予測し、博物館だより、カレンダーの部数の見直しを行った。 118号:4,000部 119号:7,000部 (参考　116号:9,600部、117号:9,600部)</p> <p>・博物館だよりおよびカレンダーについて、来館者への館内での配布を行った。 配布場所:情報コーナー、ちらし置き場、インフォメーションカウンター</p> <p>・博物館だよりおよびカレンダーについて、関連施設への発送を行った。 発送先:神戸市総合インフォメーションセンター、さんちかインフォメーション、北野観光案内所、小磯記念美術館、神戸ゆかりの美術館、市立図書館等</p> <p>・博物館だより118号、119号のPDFをホームページに掲載した。</p> <p>・博物館だよりについてFacebook、Twitterで紹介を行った。(令和2年10月27日)</p>	自己評価の詳細 プラス面 <p>・博物館だより、カレンダーについて、掲載する特別展、コレクション展示の内容について調整を行いながら、ほぼ予定通り発行することができた。今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため在宅勤務が導入されたが、メールを使用することにより、工程通り校正を進めることができた。</p> <p>・カレンダーの表紙のデザインを工夫し、より手に取りやすいものにすることができた。</p> <p>・博物館だよりの部数を見直した結果、118号については、119号の発行時に部数のほぼ全てを配布し終えることができた。</p> <p>・博物館だよりおよびカレンダーについて、配布場所のうち特に目立つ位置に配架し、来館者への配布を促進した。</p> <p>・関連施設へ発送を行い、博物館の活動を広報することができた。</p> <p>・PDFをホームページに掲載することで、当館や博物館だよりが設置されている関連施設から離れた居住地の方にも、博物館だよりの内容を知っていただくことが可能になった。また、バックナンバーを手軽に読んでいただくことが可能になった。</p> <p>・SNSでの紹介によって、博物館だよりのPDFがホームページに掲載されていることを周知することができた。</p>	自己評価の詳細 マイナス面 <p>・SNSでの紹介記事への反応が少なく、博物館だよりのPDFがホームページに掲載されていることが、十分に知られていない可能性がある。(Twitter:リツイート1、いいね11、Facebook:リアクション66)</p>
----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

P課題と目標	D実施内容	自己評価の詳細 プラス面	自己評価の詳細 マイナス面
<ul style="list-style-type: none"> 取材申し込みに対して適切対応し、情報発信に努める。 広報誌など紙媒体のツールも利用し情報発信に努める。 	<p>I. 取材申し込み対応 16件</p> <p>II. 記者資料提供 16件</p> <p>III. 神戸市関係の広報媒体(広報紙KOBE、あじさい通信、KOBE C 情報)への情報提供 12件</p> <p>IV. その他広報媒体への情報提供 72件</p> <p>V. 展覧会担当による広報媒体への情報提供 特別展「和のガラス」 18件 特別展「つなぐ」 34件 特別展「大阪湾の防備と台場」 8件 企画展「神戸源平巡り」 3件</p>	<p>新型コロナウイルス感染症の拡大状況に応じて、刻々と変わる博物館の対応策を、できるだけ早く、正確に市民に伝えることができた。</p> <p>下半期の展覧会情報を各種メディアを通じて発信することができた。</p>	<p>新型コロナウイルス感染症拡大防止を目的に、上半期の展覧会やイベントが中止、変更になった。そのため、情報発信する内容量が減少したこと。</p>

2-2-06 広聴

評価 B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

評価の詳細 来館者記入型のアンケートを実施し、アンケート結果の速やかなフィードバックを実施できた点が評価できる。また、特別展「つなぐ」期間中、従来型のアンケートに加え、館内に花びら形の付箋を貼り付けるパネルボードを設置し、従来の記入型アンケートとは異なる形式での情報収集ができた点が評価できる。

2-2-06-01 広聴(展覧会等アンケート調査実施、結果集計)

自己評価 B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

P課題と目標	D実施内容	自己評価の詳細 プラス面	自己評価の詳細 マイナス面
特別展、コレクション展示、1階無料ゾーンを対象としたアンケートを実施。 毎日回収・集計・回覧を実施	・特別展、常設展期間中に、館内にアンケート用紙・回収箱を設置し、広聴活動を開始。回収した用紙は、日々回収、集計、回覧している。 ・「和のガラス展」(10月3日-11月23日) 2階特別展示室2出口(展覧会順路出口)、1階ホールに用紙・回収箱を設置 回収枚数:126枚(入館者数:8,789人) 展覧会の総合評価:83.89 ・「つなぐ展」(12月5日-1月24日) 2階特別展示室2出口(展覧会順路出口)、1階ホールに用紙・回収箱を設置 回収枚数:39枚(入館者数:3,445人) 展覧会の総合評価:89.10 ・「大阪湾の防備と台場展」(2月6日-3月28日) 2階特別展示室2出口(展覧会順路出口)、1階ホールに用紙・回収箱を設置 回収枚数:94枚(入館者数:4,524人) 展覧会の総合評価:75.85 ・「源平展」(2月6日-3月28日) 2階特別展示室2出口(展覧会順路出口)、1階ホールに用紙・回収箱を設置 回収枚数:94枚(入館者数:4,524人) 展覧会の総合評価:83.33	・来館者記入型のアンケートを遅滞なく実施し、可能な限り展示にフィードバックすることができた。	・アンケートの回収率が低かった。 ・来館者記入型のアンケート以外の方法を導入できなかった。 ・アンケートの回収数が結果的に少なく、効果を十分に発揮できていない。設置場所や方法についての検討も必要である。

2-2-07 ミュージアムグッズ

評価 B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

評価の詳細 オリジナルグッズの製作にあたっては、資料・作品の普及に向けた視点での企画・立案が必要不可欠であるとともに、積極的な広報活動・発信も不可欠である。そのうえで、来館者のグッズ購買ニーズの的確な把握が喫緊の課題となっており、販売価格や製作数などの設定も新たな視点で取り組むことも必要とかと想定される。また、ショップ事業者との連携をより一層図りながら、懸案課題を個々に解決し、業務の推進を図っていく。

2-2-07-01 ミュージアムグッズ開発

P課題と目標	D実施内容	自己評価	B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)
・博物館オリジナルミュージアムグッズの販売促進のために、館のホームページに、商品紹介PDFを新規追加する。 ・收藏品によるオリジナルミュージアムグッズを作成、特別展にあわせて販売する。	【製 作】 ・絵葉書 数量 4,800枚(1,200枚×4種類:引札、手彫り切子ガラス平鉢、青色・黄色鶴首ガラス徳利、型吹き彩絵鯛文ガラス小皿) 納品 令和2年9月(10月3日、「和のガラス」展開幕に合わせ販売開始) 販売数 68枚(令和3年3月31日まで) ・マスキングテープ 数量 1,000個(200個×4種類:南蛮屏風、花下群舞図、四都図・世界図屏風、天球全図、兵庫姫路沿線名所案内) 納品 令和2年12月(「つなぐ」展の会期中、12月10日より販売開始) 販売数 66個(令和3年3月31日まで) ・ふせん 数量 2,500個(500個×5種類:The Far East 湊川砲台、和田岬石堡塔外冑之図、将軍天保山入港、源平合戦図屏風、小敦盛絵巻) 納品 令和3年1月(2月6日、「大阪湾の防備と台場」「神戸源平巡り」展開幕に合わせ販売開始) 販売数 79個 【広 報】 ・SNS 投稿数2(12月10日、2月12日)	自己評価の詳細 プラス面 ・展覧会に合わせて博物館オリジナルミュージアムグッズを製作することができた。	自己評価の詳細 マイナス面 ・商品の在庫数管理が不十分なこともあり、オリジナルミュージアムグッズの一部がショップで陳列されていない。 ・上記の問題解決に時間を要したため、積極的な広報が展開できなかった。

3. 人々とともに歩む

評価B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

評価の詳細 コロナ禍で、博物館の諸活動が制限されているなか、一般向け、子供向けの普及事業、博学連携など従来の取り組みについては、工夫しながら維持していた姿勢は高評価を与えて
よいだろう。

昨年度の評価では、地域や大学、研究機関などとの連携が模索されとしたが、コロナ禍のもとでは十分に果たすことができなかった。

3-3-01 普及事業

評価 B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

評価の詳細 コロナ禍ではあったが、一般向け普及事業に関しては、規模を縮小し、感染対策を講じた上で開催することができた。特に新たな取組としてギャラリートークを定時開催できたことは評価できる。子供向け普及事業についても、規模縮小の開催となり、参加者数の低迷は避けられなかった。文化庁補助事業の実質的な終了などに象徴されるように、資金繰りの課題も出る一方で、WEBによる予約システムの活用など、参加者増加につなげる可能性も今後探っていきたい。

3-3-01-01 一般向け普及事業(館内オリエンテーション含む)	B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)	自己評価	B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)
P課題と目標	D実施内容	自己評価の詳細 プラス面	自己評価の詳細 マイナス面
<ul style="list-style-type: none">・「ミュージアム講座」「学芸員と神戸を巡る」「ギャラリートーク」「大人のための浮世絵摺り入門講座」を充実した内容で、円滑、安全に実施する。 ・新型コロナウイルス感染症拡大防止のために、適切な対策をとる。 ・「ミュージアム講座」「学芸員と神戸を巡る」「ギャラリートーク」「大人のための浮世絵摺り入門講座」において、定員を上回る応募者を獲得し、参加者の80%以上の好評価を目指す。 【前年度実績】 ミュージアム講座 4回 478人 <p>アンケート中止</p> <p>大人のための浮世絵摺り入門講座 中止</p>	<p>定員の限定、参加者の手指消毒の徹底、使用バインダー・ペグシル・座席の消毒、会場内の換気(室内での開催事業)、参加者間の間隔の確保、参加者の連絡先確認などの新型コロナウイルス感染症拡大防止策を実施した上で、各事業を開催した。</p> <p>【ミュージアム講座】</p> <p>全3回、定員40人 申込み 107人</p> <ul style="list-style-type: none">・10月15日(木)・11月19日(木)・12月17日(木) のべ105人参加 ・アンケート結果:スタッフの対応、講座内容、講座時間、スライド量は各項目共、良い、まあ良いが多く割合を占めている。講座全体として興味が持てた、まあ興味が持てたの回答をほぼ全体でいただくことができた。 <p>【学芸員と神戸を巡る】全1回、定員15人</p> <p>申込み 15人</p> <ul style="list-style-type: none">・10月10日(土)、10月24日(土)「福原の都と清盛一栄華の跡を歩くー」 参加者15名 ・アンケート結果:イベントの内容は全員から「よかった」の回答をいただいた、講師の説明・スタッフの説明や対応は「よかった」10、まあよかった1と高評価をいただいた。時間は「短い」2、「ちょうどよい」9であった。「現地を見学できてよかった。」「福原京をイメージできた。」「手ごろな遺跡巡りができてよかった。」などの感想が寄せられ、満足度の高さがうかがえた。 <p>【ギャラリートーク】毎週土曜日17時～17時30分(6～9月)/14時～14時30分(10～3月)、各回定員10人</p> <ul style="list-style-type: none">・延べ30回開催 参加者計256人 ・アンケート結果:「とても満足した」「満足した」が大半であり、時間についても「ちょうど良い」の割合が多かった。感想は、「わかりやすく興味深かった」「大変勉強になった」などの高評価が得られ、満足度の高さがうかがえた、一方で、「座って話が聞きたかった」「イスがほしい」などの声が寄せられた。 <p>【大人のための浮世絵摺り入門】</p> <ul style="list-style-type: none">・開催中止	<ul style="list-style-type: none">・新型コロナウイルス感染症拡大の防止策を行って、各事業を開催することができた。 ・【ミュージアム講座】は、定員を減らし、講堂内座席の着席位置を指定とすることによって開催し、学芸員の研究成果を発信する機会とすることができた。 ・【学芸員と神戸を巡る】は、現地集合・解散として、午前中に徒歩で巡るコースを設定することによって、昼食休憩を避けて実施することができた。神戸の歴史や史跡の魅力を知る機会を提供することができた。 ・【ギャラリートーク】は、定員10人、参加者間の間隔を1.2m以上保持することによって実施した。館蔵品の魅力を来館者に伝える機会とすることができた。家族での来館者による参加も見られ、幅広い層に参加いただくことができた。また、一部の会はSNSでのオンライン配信も実施し、自宅でも楽しんでもらえる工夫ができた。	<ul style="list-style-type: none">・【ミュージアム講座】は、例年多くの参加者があるが定員を減らさざるを得なかった。開催数も年6回から3回と半減での開催となった。 ・【学芸員と神戸を巡る】では、徒歩での移動のため健脚向きでのコースとなり、3密防止の観点から定員を限定せざるを得なかった。 ・【ギャラリートーク】は、30分の開催時間では長く、椅子を用意してほしいなどの声が寄せられた。 ・【大人のための浮世絵摺り入門】は、参加者の間隔保持が難しいと判断し、開催を中止した。

<p>3-3-01-02 子供向け普及事業(土器作り教室含む)</p>	<p>自己評価</p>	<p>B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)</p>
<p>P課題と目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 子供向け普及事業の開催は、開かれた博物館として教育普及活動の重要な項目のひとつである。子供たちに博物館での学びの楽しさを理解してもらえる取り組みとして、積極的に実施しなければならない。 展覧会に関連した魅力ある子供向けのプログラムを実施する。 	<p>D実施内容</p> <p>【事業一覧】</p> <p>①ジュニアミュージアム講座</p> <ul style="list-style-type: none"> 「ガラスの器に薩摩切子の模様を描こう」 10月25日(日) 参加費500円 申込6人 参加者6人 「和のガラス」開催期間中に考古学習室で実施、薩摩切子を観察して、ぎやまん彫りのパターンをガラス皿に彫る体験講座。 「うつわをつなごう！金つぎ？体験」 12月20日(日) 参加費500円 申込5人 参加者4人 「つなぐ」展開催期間中に体験学習室で実施、真鍮粉を使用して割れた磁器の金つぎを体験。 <p>②こうべ歴史探検隊</p> <ul style="list-style-type: none"> 「和田岬砲台に入りホーダイ！」 3月13日(土) 参加費500円 申込4人 参加者4人(午前:1人・午後:3人) 「大阪湾の防備と台場展」の開催期間中に実施、博物館で特別展を観覧後、マイクロバスを使用して和田岬砲台を見学。 <p>※コートールド美術館展関連の子供向けイベント、博物館たんけん隊、土器作り教室などは、新型コロナウイルス感染症の影響により中止。</p> <p>【参加者の声】</p> <ul style="list-style-type: none"> 丁寧に教えていただいたので良かったです。ありがとうございました。(保護者)／説明をわかりやすく教えてくれたのでよかったです。失敗してもこうしたらよいよと言ってくれたので、失敗しても失敗した場所がなおったのでよかったです。他のにも参加したい。／色々な道具が使えて面白かったです。それにいろいろ知れた。／自分は金つなぎや漆つなぎのことを知らなかったけど、このイベントでよくわかりました。／もし家でできるなら家でもしてみたいです。／楽しく作業できました。昔の人はエコだと思いました。昔の人の想像力がヤバイと思いました。／本物の金つぎなどをみることでできて楽しかった。金つぎ？も体験することができてよかったです。／本当にていねいに教えて下さって、この2時間でとつても詳しくなれた気がしました。最初は砲台なんて聞いたこともなかったけれど参加してよかったです。とても楽しいことやおどろきがたくさんありました。本当にありがとうございます。とっても楽しかったです。 <p>広報</p> <p>こうべ歴史たんけん隊:展覧会チラシ、子供向けチラシ、SNS(FB2回、Twitter3回)</p> <p>ジュニアミュージアム講座:展覧会チラシ、子供向けチラシ、SNS(FB2回、Twitter2回)</p>	<p>自己評価の詳細 プラス面</p> <ul style="list-style-type: none"> 少人数で実施することでソーシャルディスタンスを維持してイベントを実施することができた。 共有の道具を無くし、アクリル板等を設置して感染対策をおこなうことができた。 学校に配布するチラシを6年生のみに配布することでコロナ過でも学校園に負担をかけずに効果的に宣伝することができた。 イベント申込方法を神戸市の予約システムを活用することで円滑な受付を行うことができた。 イベントを午前と午後の2部制にすることによってできるだけ参加者を増やすことができた。
<p>3-3-01-03 文化庁補助事業</p>	<p>自己評価</p>	<p>F 評価が困難</p>
<p>P課題と目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 文化庁の補助金は令和2年度から利用できなくなるため、限られた予算での教育普及事業の見直しが迫られている。 「神戸の文化発信実行委員会」は、令和2年度の夏ごろ開催予定の実行委員会の場において解散が提起されるため、それまでに平成31年度の実績と予算の執行状況を漏れなくまとめていく。 	<p>D実施内容</p> <p>【神戸の文化発信実行委員会】</p> <ul style="list-style-type: none"> 当館を中核に、小磯記念美術館・神戸ファッション美術館・竹中大工道具館・BBプラザ美術館・神戸市外国語大学・神戸松蔭女子学院大学からなる「神戸の文化発信実行委員会」を結成。平成31年度文化芸術振興費補助金を交付。地域の博物館美術館・大学と連携を深め、ワークショップやイベントなどの事業を展開したが、神戸市における準公金取扱事務の原則廃止方針により補助金交付が受けられなくなり、7月21日の会議をもって解散となった。 平成31年度までの活動および補助金の精算については、4月5日に文化庁へ報告を完了した。 	<p>自己評価の詳細 プラス面</p> <ul style="list-style-type: none"> 昨年度より構成諸団体との調整を進めてきたこともあり、実行委員会の解散までスムーズに進めることができた。 平成31年度までの活動や補助金の精算について、期日に遅れることなく報告することができた。
		<p>自己評価の詳細 マイナス面</p> <ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症拡大の影響もあり、実行委員会解散後の他機関との連携について具体的に進められていない。

3-3-02 博学連携

評価 A 優れている

評価の詳細

コロナ禍にも関わらず、連携授業の実施は堅調で、感染対策を意識した開催により安全かつ十分な回数を行うことができた。学校来館ではオリエンテーションの非開催など制限があったとは言え、800人以上の受け入れを行うことができたのは評価できる。グループウェアの活用など新たな技術を使った周知もかなり奏効したと思われる。

大学との連携に関して、中止となった事業があった一方で、急遽開催となった特別展と連動する形で新たな展示・講演会を行うことができたのは、次年度へのつなぎとして意味があったと思われる。

博物館実習は、コロナ禍での様々な制約や条件を加えた上で21人の実習生を受け入れて実施することができた。課題発表のあり方については、今後も検討を重ねる必要があるが、全員が無事にすべてのプログラムを修了できたことは評価できる。

3-3-02-01 連携授業（館内オリエンテーション含む）

P課題と目標 <p>・博物館所蔵資料と関連づけた連携授業を、授業の進度にあわせ、学校と緊密に連携しながら実施する。</p> <p>・連携授業について、過去5年間100回以上実施されているので、これを目標にしたい。</p> <p>・新型コロナウイルス感染症対策を視野に、連携授業を実施できる指導方法を考案し、環境を整え、実施する。</p>	D実施内容 <p>【スケジュール】</p> <p>・年度末に学校グループウェアで通知した博物館利用案内と神戸市立博物館公式サイトで連携授業プログラムを紹介</p> <p>・4月から5月までは緊急事態宣言のため連携授業は中止、6月から再開した。学校との打合せは緊急事態宣言中はメールと電話で行った。</p> <p>【連携授業実施学校数・人数等】</p> <p>・62校(のべ100校) (幼保1、小学生60、中学生2※中学生は同じ学校で学年違い)</p> <p>100回(288時間) (幼保1、小227、中、8)、のべ7,879人</p> <p>・連携授業内訳</p> <p>古代体験5回、銅鐸4回、源平18回、西洋20回、伊能図19回、文明開化13回、浮世絵16回、水墨画4回、その他1回</p> <p>・学芸員の同行</p> <p>学芸員4名、5校の授業に同行、より専門的な説明を行い、授業を補助した。</p> <p>【移動博物館「おきしお夢はこぶ号」の活動】</p> <p>・出動回数5回(5校)</p> <p>【学校来館と館内オリエンテーション】</p> <p>・14校(小3、中7、高2、特支2)</p> <p>・来館人数884人(引率者含む)</p> <p>・オリエンテーション1回</p> <p>※今年度はコロナウイルス感染拡大防止のため、学校向けオリエンテーションを開催しなかった。</p> <p>実施した1校は生徒数10人未満の少人数学級であった。</p>	自己評価	S 特に優れている
		自己評価の詳細 プラス面 <p>・学校グループウェア(SMOOVE)を活用することで、従来の紙ベースによる通知よりスピーディーな通知を行うことができた。</p> <p>・グループワークを行わない授業内容を変更することで密を避けた授業を実施することができた。さらにワークシートも授業形態に合わせて改良を加えた。</p> <p>・道具に触れる前に児童生徒への手指消毒を行い、さらに使いまわす道具を極力減らし、書画カメラを使用することで密を避けた感染対策を行うことができた。</p> <p>・学校来館では緻密な打ち合わせを行い、人数制限、班別行動を推奨することで職員含め1日で最大200人近い人数を受け入れることができた。</p> <p>・連携授業の先行予約を実施することで前回よりも混雑する時間が緩和された。</p>	自己評価の詳細 マイナス面 <p>・新型コロナウイルス感染症の影響があり、出勤時間と在宅勤務の違いから、学芸員と同行して授業を行うことがあまりできなかった。</p> <p>・おきしお号の展開、今後の運用が課題。</p>

3-3-02-02 大学との連携

P課題と目標 <p>・神戸松蔭女子学院大学、神戸市外国語大学との連携協定にもとづき、双方の強みを活かした事業を企画し、円滑・安全に実施する。</p> <p>【昨年度実績】</p> <p>神戸松蔭女子学院大学「神戸研究総論への出講」…5月～7月　6回</p> <p>「神戸の文化発信と人材育成」事業(文化庁「地域と共同した美術館・博物館創造活動支援事業」)での協力…11/30　音楽会、洋菓子・洋装再現事業</p> <p>外国人大学生のための浮世絵ワークショップ…9/25</p>	D実施内容 <p>神戸松蔭女子学院大学　神戸研究総論への出講はコロナ禍によりすべて中止。</p> <p>特別展「つなぐ」における連携事業紹介展示</p> <p>神戸松蔭女子学院大学人間科学部ファッションハウジングデザイン学科と連携して取り組んだ近代の洋装・洋菓子再現を紹介する展示を行った。</p> <p>特別展「つなぐ」における特別講演会「図様で『つながる』絵画」12/13、特別展に出品されている館蔵作品を題材に、展覧会のテーマに即して、神戸市外国語大学の馬淵美帆教授を講師に迎え特別講演会を実施した。参加者31人。</p>	自己評価	B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)
		自己評価の詳細 プラス面 <p>急遽開催となった特別展「つなぐ」の関連事業として、神戸松蔭女子学院大学、神戸外国語大学と連携した事業を実施できた。</p>	自己評価の詳細 マイナス面 <p>当初予定されていた神戸松蔭女子学院大学「神戸研究総論」への出講は中止となった。</p>

3-3-02-03 博物館実習		自己評価	B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)
<p>P課題と目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 大学の授業日程変更・遠隔授業など、新型コロナウイルス感染症の影響が及ぶ中で、受入事務を適切かつ柔軟に行う。 実習生全員の安全に配慮しながら、全日程の講義や作業に参加させ、最終的な課題提出とプレゼンテーションを完遂する。 	<p>D実施内容</p> <p>【実習生募集と受入】</p> <ul style="list-style-type: none"> 3月1日 当館HPにて実習生募集を開始。当初の申込締切は4月30日。 4月7日 大学の授業日程変更、遠隔授業の開始などを考慮し、申込締切を5月21日まで延長。 6月上旬 実習の開催方法、受け入れ態勢を検討の上、受入可と判断した学生については大学へ第一報として電話連絡。コロナに伴う条件付きの受入予定を通知。後日、受入通知書を発送。 <p>【実習日程】</p> <ul style="list-style-type: none"> 第1班:8月18日～8月22日 5日間 11人 第2班:8月25日～8月29日 5日間 10人 <p>【実習内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> 別紙参照 <p>【コロナ対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> 日々、自宅及び博物館にて検温し、チェックシートを提出 受講生、講師ともマスク着用。適宜手洗い、アルコール消毒を実施 実習生の滞在時間を短縮するため、実習日数・時間は文科省の「博物館実習ガイドライン」最低限の5日間・30時間とする。 講義は、通常よりも広い講堂を使用。「日博協ガイドライン」に基づき、座席は原則として指定席とし、十分な座席の間隔(四方を空けた席配置等)を確保するとともに、講堂内の換気をはかる。 資料取り扱いは、1班5～6人の複数の班編成とし、実習生と講師が密にならないようにする 実習課題取り組み、昼食、休憩は、3室に分散する 実習3日目は在宅にて実習課題に取り組む <p>【実習課題】「神戸市立博物館の学芸員として、展覧会を企画する」</p> <p>当館所蔵品を必ず1点含めた上で、受講生の専門分野や興味関心に基づいた自由な発想で展覧会を企画する。</p> <p>成果物として、企画書、出品リスト、関連事業案、展示図面を作成し、最終日に2階回廊に展示の上、各自企画趣旨を発表した。</p>	<p>自己評価の詳細 プラス面</p> <ul style="list-style-type: none"> コロナの影響により、博物館実習を見合わせる館もあつたなかで、プログラムの見直しや、少人数での活動、部屋の換気、消毒・検温の徹底など工夫することで、実習を開催できた。実習生、職員とも健康に留意し、感染者が出ず、実習生全員がすべてのプログラムを修了できた。 コロナ禍での実習課題として、個人での取り組みや、在宅での活動をとり入れながら、展覧会の企画を課した。実習の成果として、回廊で図面等を展示し、展示の趣旨、見どころを解説してもらうことで、受講生が主体的に活動する場を設けることができた。大学では遠隔授業が行われていたなかで、コロナに留意しながら対面で活動できたことは、受講生からも喜びの声が寄せられた。 	<p>自己評価の詳細 マイナス面</p> <ul style="list-style-type: none"> 実習課題の製作において、受講生の事前準備や興味関心の度合いが異なり、成果物の製作が順調な受講生がいる一方で、苦勞した受講生もみられた。 コロナ禍での対策として、昼食をとる部屋や実習課題を製作する部屋を3室に分けたため、例年に比べて学生間の交流する機会が限られてしまった。

3－3－03 学習支援交流員

評価 B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

評価の詳細
　コロナ禍の影響は学習支援交流員の活動にも影響し、来館者向けのワークショップなど表向きの事業はすべて中止となった。また、高齢者の比重の高い構成となっているため、定例会や勉強会を行うにあたっても、事前連絡や人数制限の徹底など、様々な制約が課せられた。未だに先の見えない状況ではあるが、ワークショップの技術の継承・向上のための取り組みはなんとか維持されたものと思われる。次年度以降は安全性を十分留意しながら、本来の活動を再構築できることを期待する。

3－3－03－01 学習支援交流員の活動(定例会・研修・活動人数)

P課題と目標	D実施内容	自己評価の詳細 プラス面	自己評価の詳細 マイナス面
<ul style="list-style-type: none">学習支援交流員の定例会・勉強会・研修を開催する。 学習支援交流員の現状を踏まえた規約の見直しと改正を行うことについて検討する。 担当の職員だけでなく、他の学芸員、指導主事、交流員が意見交換しながら、学習支援交流員の活動に関与を深める。 学習支援交流員の新規募集を延期し、来年度の募集に向けて準備を進める。 新型コロナウイルス感染症拡大防止のために、適切な対策をとる。	<ul style="list-style-type: none">※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、4月～8月および2月は学習支援交流員の活動全体を停止した。 【定例会・勉強会】 <ul style="list-style-type: none">定例会:原則毎月第1金曜日午後2時から実施。全6回、のべ151人参加(各回平均25.1人) 学芸員講師による勉強会:3回・のべ71人参加。 【研修会】 <p>令和元年度末に行われる予定で、コロナ禍のため延期となっていたもの。</p> 計2回　のべ54人参加 【博物館事業支援】 <p>13回、のべ45人</p> 【学習支援交流員の募集】 <ul style="list-style-type: none">令和2年度学習支援交流員22人、学習支援交流員活動アドバイザー13人　合計35人 令和2年度から活動を開始した学習支援交流員(9人)は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、ワークショップ実施等に制限があり、十分に活動できない状況であったため、新たに交流員の新規募集を行わなかった。 <p>※令和3年度は募集時期を4～5月(予定、感染拡大の状況によっては時期の変更が必要)とする方針を決定した。</p>	<ul style="list-style-type: none">活動期間中は、定例会を毎月開催しており、学習支援交流員、活動アドバイザーの半数以上が参加した。 募集について、今年度行わないことを決めたくうえで、来年度の募集の方針を定めた。 担当以外の職員が学習支援交流員の活動に関わることができるよう、交流員の活動予定日を一覧にした月間予定表を作成し、職員が使用するスケジュールボード上で共有を行った。 新型コロナウイルス感染症拡大防止のために、活動前的手指消毒と検温を義務化した。また、活動場所のドアを開放し、サーキュレーターを用いて換気を行い、座席を用いる場合は間隔を空けて座ってもらうようにした。マイクや座席について、使用後の消毒を行った。緊急事態宣言中および感染拡大期については、交流員に速やかな伝達を行い、活動全体を停止した。	<ul style="list-style-type: none">定例会を欠席したため配布資料を受け取れず、次回定例会の開催予定を把握できていない学習支援交流員がいた。従来、欠席者には、来館や交流員間での連絡という方法で情報を共有してもらっていたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため来館がままならない場合もあるという状況下では、当館から伝達を行う必要があると考えられる。 規約の見直しと改正についての検討を行えなかった。 学習支援交流員活動への、担当以外の職員の参加が不十分であった。

3－3－03－02 学習支援交流員による講座・ワークショップ

P課題と目標	D実施内容	自己評価の詳細 プラス面	自己評価の詳細 マイナス面
<ul style="list-style-type: none">体験学習室でのワークショップの実施。また、神戸まつり等の各種イベントに出向き、ワークショップを実施する。 居留地ガイドの実施。 新規ワークショップの開発に取り組む。 既存のワークショップの技術、知識を交流員間で共有する機会を設ける。また、技術継承のためのマニュアルを作成する。 上記の取り組みを円滑に実施できる様に、学芸員は適切な助言や補助、広報、資材等の調達を行う。	<ul style="list-style-type: none">新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、4月1日～7月29日、1月13日～3月1日まで、活動中止。 来館者向けのワークショップ、居留地探検ガイドは上記の感染症拡大防止のため、今年度はすべて中止することを申し合わせた。 ワークショップの技術の向上、交流員間での知識の共有および、今年度から加入した交流員への技術伝承のため、実習や検討会を行った。また新規ワークショップの開発に取り組んだ。 延べ日数21日　延べ人数238人(別添表参照) <p>新規ワークショップ開発　2件(居留地の紙芝居、南蛮屏風を作ろう)</p> <ul style="list-style-type: none">マニュアル案　1件(居留地探検マニュアル) 交流員が新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を適切に行いながら活動できるよう、担当学芸員で以下の通り方針を定め、交流員に通知した。 <p>①10人以上の大人数にならないようにスケジュールを調整した。それ以上になる場合は活動する部屋を2つに分けた。</p> <p>②交流員の入館時に体温測定、手指消毒を必ず行うようにした。</p> <p>③活動中はサーキュレーターを用いて換気を行った。</p> <p>また、ワークショップの実習や開発のために助言を行い、必要に応じて資材を調達した。</p>	<ul style="list-style-type: none">新型コロナウイルス感染症の流行で活動が大幅に制約される状況下ではあったが、現在のワークショップの技術向上や交流員間での知識の共有、今年度から加入した交流員への技術伝承に取り組むことができた。また、新たなワークショップの開発2件、マニュアル作成1件ができた。	<ul style="list-style-type: none">新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、緊急事態宣言が2度出され、活動が著しく制限された。 今年度は新型コロナウイルス拡大防止対策で1年にわたり、一般向けのワークショップ、居留地探検ガイドを行えなかった。

3-3-04 地域連携・共催事業

評価 B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

評価の詳細 コロナ禍でありながら、各区文化センターなどでの講座を維持できたので、この流れを令和3年度につなげていきたい。6月からの再開館後には、地域活性化の試みとして、博物館の夜間延長を利用し、ミュージアム・コンサートを開催した。コンサート規模に見合った集客効果は認められるものの、博物館利用へ導くような効果はそれほど得られなかった。阪神間美術館・博物館連絡協議会(木曜会)やKOBEMUSEUM LINKについてはコロナ禍でもあり、特筆すべき成果をあげることはできなかったものの、連携関係を途切れることなく継続することができた。引き続き、当館にとっても有益となる地域連携のあり方を模索する必要がある。

3-3-04-01 地域連携・共催事業(勤労市民センター、他館との連携含む)

P課題と目標	D実施内容	自己評価の詳細 プラス面	自己評価の詳細 マイナス面
地域の関係団体と連携し、博物館独自の強みやスキルを活かした事業を実施できたか。	【神戸いきいき勤労財団との連携事業による勤労市民センターの講座】 2回開催 のべ84人参加 【神戸市文化振興財団との連携事業による文化センター地域セミナー】 6回開催 のべ123人参加 【婦人大学】 12月11日 「平清盛とその時代―福原京を中心として―」 44人 【ミュージアム・コンサート】 神戸市、旧居留地連絡協議会の主催。博物館1階ホールで金曜日または土曜日に開催(不定期)。11回開催。のべ425人が参加。 【阪神間美術館・博物館連絡協議会(木曜会)】 新型コロナウイルス感染症の拡大により対面形式での会議は開催せず、メールを通じての情報共有を実施、感染症対策として、会費で会員館に手指消毒用のアルコールを購入した。 【KOBEMUSEUM LINK】 11月11日、参加館の職員交流の一環として「各館訪問」を当館で開催。当館の概略オリエンテーションと、特別展・常設展示の鑑賞。他館からの参加は10人。公式HPのデザインと概要を決定。令和3年1月より公開開始した。これに掲載する参加各館の紹介動画を撮影完了。KOBEMUSEUM LINKのロゴを、一般の人気投票を経て決定。 【はいからプロジェクト】(旧居留地連絡協議会) 「居留地文化祭」(高校の部11月15日・12月20日、大学の部11月22日)開催に協力	コロナ禍において、人数制限など制約はあったものの、いきいき勤労財団や各区文化センターでの講座類を継続できた。博物館再開後の新しい試みとして、ミュージアム・コンサートとギャラリートークを連動して開催する試みを行うことができた。	ミュージアム・コンサートとギャラリートークの連携により夜間延長時の博物館にぎわい創生が期待されたが、はっきりとした効果は見られなかった。

4. やさしさと安心の確保

評価B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

評価の詳細 建物・設備等の老朽化が進行中であり、各種点検に基づき適時、必要な修繕・更新を行った。
空調機器更新等の大規模工事についても予算確保を行い、長寿命化の計画的な推進を行った。
予算の制約もあり、修繕を必要とする箇所すべてに対応できていないが、最低限求められる対応を行った。
インフォメーション・ショップ等に関しては、新型コロナウイルス感染症対策も含め、適正に業務を行った。
大規模災害、緊急対応に関しては、新型コロナウイルス感染症対策としての展覧会の入場制限等は実施するには及ばなかったが、館内・展示室内への入場状況の確認等を円滑に行うことができた。また、特別展毎に避難誘導訓練を実施し、職員をはじめ関係者の防災意識の向上に努めた。

4-4-01 施設管理

評価 B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

- 評価の詳細**
- ・設備保守の委託先事業者と緊密に連携して、適切に維持管理・運営を行った。
 - ・老朽化している設備が多く、今後とも注意を払って、維持管理を行う。
 - ・改修工事や更新を進めていく必要があるため、必要な予算措置を講じ、計画的に対応していく。

4-4-01-01 建物・設備の現状と課題、長寿命化の計画と対策

P課題と目標

・法令で定期点検や訓練が必要な事項については、すべてクリアするべく予算計上し、執行するよう努める。しかしながら、建物、設備等の陳腐化・老朽化等により、対応が不十分な点もある。

・新しい規格に合う設備や施設を更新していく必要がある。

・設備総括管理業務の委託業者との連携 設備等の情報共有を深めるとともに、計画性を持って設備保守点検等を実施する。

D実施内容

【通常点検業務】

- ・エレベーターや消防設備等点検、法定点検や修理を行い、法定点検をクリアするとともに、古い部品を更新した。
- ・適切な設備機器の運転・管理を引き続き行った。

【営繕工事関係】

- ・昨年 の博物館リニューアル工事時、新たにトイレの洋式化や衛生器具などを更新した。未改修であったの地階トイレの洋式化を実施し、全館のトイレバリアフリー化が完了した。
- ・消防設備等点検結果の情報を共有し、設備点検の専門的な観点から補修計画を検討した。
- ・リニューアル工事の対象として扱えなかったものの、収蔵庫及びバックヤード系施設の照明のLED化、上水道の直圧化、空調設備の老朽化に伴う更新の必要性が新たに発生し、これらの工事に向けた予算の獲得と実施時期の調整が必要である。
- ・空調機器更新に必要な予算確保ができたため、令和3年度に工事を行う。

【BELCA(ベルカ)賞の受賞決定】

BELCA賞は長期間の使用を考慮した設計によって建設されるとともに、長年にわたり適切に維持保全され、今後とも相当の期間にわたって維持保全されることが計画されている模範的な建築物についての表彰制度で、ビルのロングライフ化に寄与することを目的としている。令和2年7月上旬に申請を行い、厳正な審査の結果、令和3年1月22日に第30回表彰(ロングライフ部門)での表彰が決定した。

自己評価 B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

自己評価の詳細 プラス面

・設備の維持管理は、設備総括管理業務を委託している業者と連携をとりながら、適切な維持管理と改修工事、改修計画を確実に行った。

・常に情報共有を図りながら、設備管理に支障のないように努めた。

自己評価の詳細 マイナス面

・設備自体が老朽化したものが多く、経常的な予算で十分な補修は困難な状況である。

・消防設備の補修計画の検討にとどまり、補修には及ばなかった。

4-4-02 インフォメーション、ショップ・カフェ

評価 B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

- 評価の詳細**
- ・インフォメーション業務については、適切に運営された。各種報告、来館者対応、代表電話対応も適切に行われた。
 - ・新型コロナウイルス感染症関係で、特別な体制、業務を要請したが、柔軟に対応できた。
 - ・ショップ・カフェについては、新型コロナウイルス感染症対策で、休業を余儀なくされた。特別展開催期間を中心にカフェの利用者も多いが、博物館入館者数が通常想定にはほど遠く、経営は苦戦している。
 - ・博物館の雰囲気を生かした魅力あるカフェ・ショップづくりを実現している。

4-4-02-01 インフォメーション	自己評価	B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)
P課題と目標 <ul style="list-style-type: none">・適切な業者選定を行うこと・インフォメーション及び2階コレクション展示入口での業務を円滑に実施すること・事務室内での電話応対を円滑に行うこと・日報を正確に作成するとともに、入館者情報を適時的確に把握していくこと	自己評価の詳細 プラス面 <ul style="list-style-type: none">・職員とインフォメーションスタッフとの円滑な事務が行えた。・日常業務には、信頼関係が築けた。・新型コロナウイルス感染症拡大防止対応において、対応策が変化する中、職員の指示の下、臨機応変に最善の対応を行うことができた。	自己評価の詳細 マイナス面 <p>特になし</p>

4-4-02-02 ミュージアムショップ・カフェ	自己評価	B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)
P課題と目標 <p>公募型企画提案で選定した事業運営者は2年目であり、入館者に喜ばれる質の高いサービスを提供するカフェ・ショプ作りを行う。</p>	自己評価の詳細 プラス面 <ul style="list-style-type: none">・博物館の雰囲気を十分に生かした照明設備や床材、机椅子など調度品を揃え、工夫を凝らした。・博物館への来館者の多い特別展開催期間を中心に、カフェの利用者は満席に近く賑わっており、魅力あるカフェ・ショップづくりを実現している。	自己評価の詳細 マイナス面 <p>新型コロナウイルス感染症の影響で、大型海外展(コートールド美術館展、ボストン美術館展)が中止となる中、想定の入館者数には、到底及ばない。事業運営者の売上は伸びず、営業努力ではカバーできない要因がある。</p>

4-4-03 警備、清掃

評価 B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

- 評価の詳細
- ・警備については、来館者のチェック、巡回業務を適切に実施し、円滑に業務を遂行した。
 - ・清掃業務については、的確に業務を行った。特に、新型コロナウイルス対策もきめ細かく柔軟に対応できた。

4-4-03-01 警備	自己評価	B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)
<p>P課題と目標</p> <ul style="list-style-type: none">・適切な業者選定を行うこと・展示・館蔵資料の良好な保存環境の保持と、盗難・破損からの保護、並びに来館者への快適な鑑賞空間の提供のため、万全な警備を実施すること	<p>自己評価の詳細 プラス面</p> <p>立哨警備及び巡回警備についても、特に問題なく業務遂行できた。事故等の発生もなかった。</p>	<p>自己評価の詳細 マイナス面</p> <p>特になし</p>
4-4-03-02 清掃	自己評価	B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)
<p>P課題と目標</p> <ul style="list-style-type: none">・適切な業者選定を行うこと・清掃業務は開館日は3名体制、臨時休館日は2名体制で適切に実施すること	<p>自己評価の詳細 プラス面</p> <ul style="list-style-type: none">・清掃契約の更新も問題なく更新できた。・日常清掃、定期清掃業務を確実に行った。	<p>自己評価の詳細 マイナス面</p> <p>特になし</p>

4-4-04 緊急時対応

評価 B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

- 評価の詳細
- ・インフォメーションスタッフ、警備員などの巡回で、不測の事態が起こらないよう留意した。
 - ・消防避難誘導訓練により、博物館に勤務する者の防災の意識づけを行うことができた。
 - ・新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を確実に実施した。今後とも関係機関と情報を共有し、対応していく。

4-4-04-01 緊急事態への対応状況(来館者対応、事件・事故・災害対応)	自己評価	B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)
P課題と目標 想定外の事態にも対応できるように、全ての職員・スタッフがどう対処するかを常に意識しておくこと。	自己評価の詳細 プラス面 緊急時において、あわてることなく適切な対応がとれた。	自己評価の詳細 マイナス面 緊急事態を未然に防ぐための工夫を日頃から考える必要がある。

4-4-04-02 大規模災害への対応策	自己評価	B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)
P課題と目標 <ul style="list-style-type: none">・神戸市立博物館消防・救急計画の周知徹底・実態に即した避難訓練の実施・新型コロナウイルス感染症対策	自己評価の詳細 プラス面 <ul style="list-style-type: none">・消防避難訓練を通じて、博物館で勤務する者への防災への意識づけができた。・新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を確実に実施した。	自己評価の詳細 マイナス面 手指消毒液、マスクなど、当初は一部備蓄が十分でない時期もあった。